

医療法人タピック

沖縄リハビリテーションセンター 病院

業績集 2024

The Journal of Okinawa Rehabilitation Center Hospital
Vol.13

2024年4月～2025年3月



TAPiC

TAPiC の理念

Total

総合性

患者さんを心と体、社会性という総合的な存在として捉える総合医療

Academic

探求性

未踏の分野を目指し研究する専門家集団

Popular

患者の立場

原点は病む心への援助

International

国際性

視界をアジア・世界に向ける

Centurial

21世紀にふさわしい

新世紀の医療の担い手



目 次

巻頭言	医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院	
	管理部 部長 宮里 諭明	4
タピック関連企画の講演会・講習会		7
院外講演・講義		9
執筆		17
学会発表		18
座長		20
査読		21
院内研修会・勉強会・研究大会・委員会報告会		22
イーストタピック研究大会 2024		25
看護・介護実践研究発表会 2024		26
その他の業績		27
ホールカンファレンス		30
小論文		36
数字で見る沖縄リハ病院		48
沖縄文化スポーツイノベーション株式会社広報誌		55
年表（2024年・令和6年）		59
タピックグループ一覧		60
編集後記	医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院	
	リハビリテーション部 部長 平 勝也	63

巻 頭 言

医療法人タピック
沖縄リハビリテーションセンター病院
管理部 部長 宮里諭明

医療法人タピックの 2024 年度業績集をお届けするにあたり、職員の皆様、患者・ご家族の皆様、そして地域の医療機関の皆様に心より感謝申し上げます。

2024 年度の変革と成長の一年を振り返って

2024 年度は、医療・介護・障がい福祉の 3 つの報酬が同時に改定される 6 年に 1 度の重要な年でした。持続的な事業継続と地域医療に貢献するためにも、コロナ禍で傷んだ経営の再構築ミッションに加え、特に回復期リハビリテーション病院にとって厳しい改定内容となる中、危機感と当院の「こころとからだの総合リハビリテーション」という理念のもと、様々な改革プロジェクトに全力で取り組んでまいりました。2024 年 6 月 1 日イーストタピック方針 10010060 を合言葉に 390 床（回復期リハビリテーション病棟 199 床・精神科病棟 191 床）の効率的運営を目指し職員一丸となった取り組みを進めてきました。その成果もあり、回復期リハビリテーション病棟においては 97.8%とコロナ前の水準を超える年間稼働率を達成し、厳しい改定を乗り越え、地域医療への貢献に寄与できた 1 年だったように思います。また、急性期病院からご要望の多い、脳血管疾患患者様の受け入れ体制強化を目的に C（脳血管障害：Cerebral vascular disease）プロジェクトを同月に立上げ、急性期病院（中部徳洲会病院、中頭病院、中部病院）様との意見交換や定期的な訪問など、医療機関様との連携やコミュニケーションも進化した 1 年でありました。

また、2024 年度改定は賃上げ改定とも言われており、職員の皆様の処遇改善においても、新人事制度を導入し、賃金制度の改定とベースアップ手当の実施、さらに介護部門での処遇改善加算の最上位ランク取得を達成いたしました。これは職員一人ひとりの専門性と貢献を適切に評価し、働きがいのある職場環境を構築するための重要な一歩です。タピック人事評価制度の目的である、個人と組織がともに成長し、経済的に社会的に人間的にも価値を高めて、みんなが豊かになること。その目的達成のために、毎年ブラッシュアップに努めてまいります。

DX 推進・業務効率化では、ワークフロー導入や亀の里 ICT 補助金の活用により、医療現場の業務効率を大幅に向上させました。また、亀の里大規模修繕工事補助事業、ラ・ペジブル泡瀬特定施設化プロジェクト、法人全体のコスト削減プロジェクトなど、病院・施設間の連携強化・機能向上と経営効率化を同時に実現する取り組みを推進いたしました。

2025 年度への展望について

2025 年度は、地域の精神科医療への貢献のためにも、精神科病棟 191 床の満床達成を最重要目標として掲げ、精神医療とリハビリテーション医療の融合による当法人独自の価値提供をさらに強化してまいります。また、経営と医療の質向上のための業務変革を継続的に推進し、患者様により良い医療サービスを提供すると同時に、持続可能な経営基盤の構築と職員の待遇・働きがいの向上に努めてまいります。

結びに

医療を取り巻く環境が急速に変化する中、当院は「こころとからだの総合リハビリテーション」という独自の

専門性を軸に、患者様一人ひとりに寄り添った質の高い医療の提供に全力で取り組んでまいります。2040 年に向けた諸問題（①団塊の世代を看取っていく ②労働人口が本格的に減少する ③団塊ジュニア世代が高齢者になる ④国の財政の正念場を迎える）に微力ながら貢献するためにも、当法人の 2040 年ビジョンである「健康と生きがいのある元気なまちづくり」に向けて引き続きスタッフ一同努力してまいります。

職員の皆様のたゆまぬ努力と情熱、患者・ご家族の皆様のご理解とご協力、そして地域医療機関の皆様との連携により、2025 年度の数々の成果を達成することができました。心より御礼申し上げます。

今後とも、医療法人タピックへの変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

講演会・講習会等

タピック関連企画の講演会・講習会

院外講演・講義

執筆

学会発表

座長

院内研修会・勉強会・研究大会・委員会報告会

イーストタピック研究大会 2024

看護・介護実践研究発表会 2024

派遣事業

その他の業績

ホールカンファレンス

タピック関連企画の講演会・講習会

1. 沖縄県高次脳機能障害セミナー

テーマ：「高次脳機能障害のある人の訪問リハでの就労支援」～地域でできる社会参加支援～

講師：医療法人社団青藍会たいじゅクリニック訪問リハビリテーションらいらつく 浅野 友佳子（作業療法士）

日時：2024 年 10 月 5 日

場所：沖縄リハビリテーションセンター病院 新館 6 階 講堂

主催：沖縄県

共催：沖縄県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業拠点機関
医療法人タピック沖縄リハビリテーションセンター病院

後援：一般社団法人沖縄県作業療法士会

2. 沖縄県失語症セミナー2024

テーマ：高次脳機能障害と画像診断

講師：旭神経内科リハビリテーション病院 石原 健司（医師）

日時：2025 年 1 月 18 日

場所：沖縄リハビリテーションセンター病院 新館 6 階 講堂

主催：沖縄県

共催：一般社団法人沖縄県作業療法士会

沖縄県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業拠点機関
医療法人タピック沖縄リハビリテーションセンター病院

《沖縄県依存症治療拠点機関研修》

3. テーマ：「依存症の正しい理解と回復支援について」（依存症医療研修）参加 185 回線

講師：埼玉県立精神医療センター副院長 成瀬 暢也 氏

日時：2024 年 4 月 16 日

場所：オンライン開催

主催：TAPIC アディクションセンター

4. テーマ：「依存症家族のための CRAFT ～コミュニケーションスキルの実践～」 （地域生活支援研修）現地 22 名

講師：新垣 真梨子（精神保健福祉士、公認心理師）、山田 豊（公認心理師）

日時：2024 年 5 月 18 日

場所：沖縄リハビリテーションセンター病院 新館 6 階 講堂

主催：TAPIC アディクションセンター

5. テーマ：「『変わりたい』育み行動変容を支援する」（依存症医療研修）参加 204 回線

講師：札幌学院大学人文学部教授 北田 雅子 氏

日時：2024 年 6 月 19 日

場所：オンライン開催

主催：TAPIC アディクションセンター

6. テーマ：「第1回問題解決しない事例検討会」（地域生活支援研修）参加者 26 名

講師：手塚 幸雄（医師）、石川 章旗（作業療法士）、杉浦 彩乃（作業療法士）、
幸地 睦子（作業療法士）

日時：2024 年 7 月 12 日

場所：沖縄リハビリテーションセンター病 新館 6 階 会議研修室

主催：TAPIC アディクションセンター

協力：「問題解決しない事例検討会」を用いた地域連携モデルの効果研究

7. テーマ：「チラシ一枚、いのちがひとつ ～10 秒ひと手間、みんなのできる家族支援～」

（依存症医療研修）参加 91 回線

講師：一般社団法人ひとひら 代表 田辺 暢也 氏

日時：2024 年 8 月 20 日

場所：オンライン開催

主催：TAPIC アディクションセンター

8. テーマ：「動機づけ面接スキル ～『本当は変わりたい』発言を見つける、理解する、育てる」～

（依存症医療研修）参加 206 回線

講師：東京都済生会中央病院 村田 千里 先生

日時：2024 年 10 月 15 日

場所：オンライン開催

主催：TAPIC アディクションセンター

9. テーマ：「第2回問題解決しない事例検討会」（地域生活支援研修）参加者 31 名

講師：手塚 幸雄（医師）、石川 章旗（作業療法士）、杉浦 彩乃（作業療法士）、
幸地 睦子（作業療法士）

日時：2024 年 11 月 22 日

場所：沖縄リハビリテーションセンター病院 新館 6 階 講堂

主催：TAPIC アディクションセンター

協力：「問題解決しない事例検討会」を用いた地域連携モデルの効果研究

10. テーマ：「依存症当事者にとってアルコール・薬物は100%悪なのか？」（依存症医療研修）参加者 86 名

講師：一般社団法人 DARC 大きな和 代表理事 杜 宙樹 氏

：依存症リカバリーサークル 代表 仲田 翔太 氏

：犬尾 仁（医師）

日時：2024 年 12 月 17 日

場所：沖縄リハビリテーションセンター病院 新館 6 階 講堂

主催：TAPIC アディクションセンター

11. テーマ：「支援者のための CRAFT～家族支援にどう活かす？～パートⅡ」

（地域生活支援研修）参加者 9 名

講師：新垣 真梨子（精神保健福祉士、公認心理師）、山田 豊（公認心理師）

日時：2025 年 1 月 18 日

場所：沖縄リハビリテーションセンター病院 新館 6 階 会議研修室

主催：TAPIC アディクションセンター

12. テーマ：「変わりたいを育てる 動機づけ面接」（依存症医療研修）参加 127 回線

講師：ちばなクリニック健康管理センター医長 清水 隆裕 先生

日時：2025 年 2 月 18 日

場所：オンライン開催

主催：TAPIC アディクションセンター

13. テーマ：「第 3 回問題解決しない事例検討会」（地域生活支援研修）参加者 17 名

講師：手塚 幸雄（医師）、石川 章旗（作業療法士）、杉浦 彩乃（作業療法士）、
幸地 睦子（作業療法士）

日時：2025 年 3 月 1 日

場所：沖縄リハビリテーションセンター病院 新館 6 階 講堂

主催：TAPIC アディクションセンター

協力：「問題解決しない事例検討会」を用いた地域連携モデルの効果研究

院外講演・院外講義

《院外講演》

1. 氏名：手塚 幸雄（医師）

テーマ：第 5 回 山口県依存症セミナー

依存症からの回復と支援の実際～正しい理解からはじまる関わりの第一歩～

「より多くの依存症者が医療に繋がるための試行錯誤」

日時：2024 年 8 月 25 日

場所：オンライン

主催：山口県依存症治療拠点機関（高嶺病院・山口県立こころの医療センター）

2. 氏名：手塚 幸雄（医師）

テーマ：令和 6 年度 岡山市一般医療機関アルコール専門研修

「忙しくても無理なくできる 飲酒問題を抱える方へのアプローチ」

日時：2024 年 12 月 9 日

場所：ピュアリティまきび

主催：岡山アルコール依存症早期支援ネットワーク・岡山市こころの健康センター

後援：岡山市医師会・岡山市内医師会連合会

3. 氏名：手塚 幸雄（医師）

テーマ：令和 6 年度 厚生労働省 依存症民間団体支援事業

アルコール依存症者回復支援施設レベルアップ研修事業

「安心して繋がれる場所になるために ～医療機関とスティグマ～」

日時：2025 年 1 月 25 日

場所：那覇保護観察所

主催：NPO 法人回復はどこにでもある

4. 氏名：手塚 幸雄（医師）

テーマ：令和6年度 大阪府依存症医療研修

「いつでも誰でもどこでもできるアルコール診療」

日時：2025年2月16日

場所：大阪精神医療センター

主催：大阪府、大阪市、堺市

5. 氏名：手塚 幸雄（医師）

テーマ：こころの科学 237 号 刊行記念ウェブセミナー

ライブで話そう 病気未満のアディクション 著者クロストーク

日時：2024年9月23日

場所：オンライン

主催：日本評論社

6. 氏名：高野 圭史（言語聴覚士）

テーマ：失語症啓発講演会「失語症の基礎知識」

日時：2024年9月29日

場所：沖縄リハビリテーションセンター病院

主催：沖縄県（事業委託：一般社団法人沖縄県言語聴覚士会）

7. 氏名：山城 亮輔（公認心理師）

テーマ：人間理解とコミュニケーション

日時：2024年7月11日

場所：ヒルトン沖縄北谷リゾート

主催：中頭地区高等学校 PTA 連合会

8. 氏名：山田 豊（公認心理師）

テーマ：依存症支援者研修会「家族支援と支援者のセルフケア」

「依存症家族のための CRAFT～コミュニケーションスキルの実践～」

日時：2024年8月28日、29日

場所：八重山合同庁舎2階 大会議室

主催：八重山保健所

9. 氏名：山田 豊（公認心理師）

テーマ：アルコール関連問題支援者研修「支援者向け CRAFT について」

日時：2024年9月10日

場所：宮古保健所 健康増進室

主催：宮古保健所

10. 氏名：山田 豊（公認心理師）

テーマ：那覇市包括支援センター支援者研修「困難事例で遭遇する共依存について」

日時：2024 年 10 月 30 日

場所：那覇市ともかぜ振興会館

主催：那覇市役所ちやーがんじゅう課

11. 氏名：宮里 由乃（理学療法士）

テーマ：第 25 回沖縄県理学療法学術大会：時代の変化と理学療法士～未来への対応策～

日時：2024 年 11 月 2 日

場所：沖縄県科学技術大学院大学

主催：沖縄県理学療法士協会

《院外講義》

1. 氏名：宮里 好一（医師）

テーマ：今の時代をどうとらえるか 5 年後に世界はどうなるか 2030 年の意義

日時：2024 年 6 月 7 日

場所：ペアーレ沖縄 3 階

主催：ペアーレ沖縄タピック 幸寿大学

2. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：令和 6 年度アルコール関連問題支援者研修会 「アルコール依存症の基本的知識について」

日時：2024 年 9 月 10 日

場所：中部保健所

主催：中部保健所

3. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：令和 6 年度アルコール家族教室 「アルコール依存症について知ろう」

日時：2024 年 11 月 21 日

場所：中部保健所

主催：中部保健所

4. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：令和 6 年度消防学校救急科講義（精神障害）

「精神科救急医療体制」「精神疾患への具体的対応方法」「災害精神医療とストレス反応」

日時：2024 年 11 月 15 日

場所：沖縄県消防学校

主催：沖縄県消防学校

5. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：ブリーフ・インターベンション&HAPPY プログラム研修会 「Ultra-BI」「グループワーク」

日時：2024 年 7 月 13 日、12 月 5 日

場所：オンライン

主催：肥前精神医療センター

6. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：知っておこう！上手なお酒との付き合い方

日時：2024 年 5 月 24 日

場所：ペアーレ沖縄・タピック

7. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：薬物から地域を守るために 知識と連携の力

日時：2025 年 1 月 30 日

場所：南大東村保健センター

8. 氏名：手塚 幸雄（医師）

講義名：自分を守る力を身に付けよう！薬物のリスクと正しい知識

日時：2025 年 1 月 31 日

場所：南大東小中学校

9. 氏名：手塚 幸雄（医師）、石川 章旗（作業療法士）、幸地 睦子（作業療法士）

講義名：「令和 6 年度 第 1 回那覇市問題解決しない事例検討会」

日時：2024 年 6 月 28 日

場所：那覇市役所本庁 401AB

主催：那覇市基幹相談・相談ワーキング

協力：TAPIC アディクションセンター

10. 氏名：手塚 幸雄（医師）、幸地 睦子（作業療法士）

講義名：「令和 6 年度 第 2 回那覇市問題解決しない事例検討会」

日時：2025 年 3 月 11 日

場所：那覇市役所本庁 401AB

主催：那覇市基幹相談・相談ワーキング

協力：TAPIC アディクションセンター

11. 氏名：高野 圭史（言語聴覚士）

講義名：失語症者向け意思疎通支援者養成事業「失語症のある人の日常生活とニーズ」

日時：2024 年 7 月 6 日

場所：沖縄県総合福祉センター

12. 氏名：高野 圭史（言語聴覚士）

講義名：失語症者向け意思疎通支援者養成事業「意思疎通支援者とは何か」

日時：2024 年 7 月 6 日

場所：沖縄県総合福祉センター

13. 氏名：高野 圭史（言語聴覚士）

講義名：失語症者向け意思疎通支援者養成事業「意思疎通支援者の心構えと倫理」

日時：2024 年 7 月 6 日

場所：沖縄県総合福祉センター

14. 氏名：高野 圭史（言語聴覚士）

講義名：言語聴覚障害診断学Ⅱ

日時：2024年4月25日

場所：沖縄リハビリテーション福祉学院

15. 氏名：宜野座 智光（看護師）

講義名：手洗い講習と嘔吐時の対応

日時：2024年9月30日

場所：宜野湾市社会福祉協議会（愛育園）

16. 氏名：安慶名 誠（看護師）

講義名：「リハビリテーション看護論」

日時：2024年6月17日

場所：名桜大学 人間健康学部 看護学科

17. 氏名：稲葉 圭吾（看護師）

講義名：「基礎看護学 技術論」

日時：2024年6月6日、6月20日、6月24日

場所：北部看護学校 看護学科

18. 氏名：田里 美咲（看護師）

講義名：「喀痰吸引等指導者講習」

日時：2025年1月14日

場所：沖縄県看護協会

19. 氏名：久田 友昭（理学療法士）

講義名：老年看護学方法論Ⅰ 高齢者の生活機能を支える看護 高齢者の日常生活を支える看護（FIM）

日時：2024年7月3日

場所：学校法人湘央学園浦添看護学校

20. 氏名：飯田 笑子（作業療法士）

講義名：高次脳機能障害者の運転免許再開支援について

日時：2024年11月17日

場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館講堂

21. 氏名：山城 亮輔（公認心理師）

講義名：心理学と心理的支援（全15回）

日時：2024年4月～2024年7月

場所：琉球リハビリテーション学院 社会福祉学科

22. 氏名：山城 亮輔（公認心理師）

講義名：心理学と心理的支援（レポート指導・添削）

日時：2024年7月7日

場所：ソーシャルワーク専門学校 社会福祉士一般養成課程（通信）

23. 氏名：山城 亮輔（公認心理師）

講義名：心理学と心理的支援（全15回）

日時：2024年9月～2025年2月

場所：沖縄統合医療学院 社会福祉学科

24. 氏名：山田 豊（公認心理師）

講義名：アルコール家族教室第1回

日時：2024年8月23日

場所：中部保健所 3階研修室

主催：中部保健所

25. 氏名：山田 豊（公認心理師）

講義名：アルコール家族教室第2回

日時：2024年10月25日

場所：中部保健所 3階研修室

主催：中部保健所

26. 氏名：山田 豊（公認心理師）

講義名：アディクション関連問題管内事例検討会

日時：2024年2月20日

場所：中部保健所 2階ゆいまーる室

主催：中部保健所

27. 氏名：大城 真悟（介護福祉士）

講義名：沖縄県認知症介護実践者研修

テーマ：「認知症の人とのコミュニケーションの理解と方法」「自施設における実習の課題設定」
「自施設実習評価」

日時：2024年6月10日・6月21日・7月22日（第1回）

9月2日・9月12日・10月11日（第2回）

場所：いちゅい具志川じんぶん館（第1回・第2回）

28. 氏名：大城 真悟（介護福祉士）

講義名：沖縄県認知症介護実践リーダー研修

テーマ：「認知症介護実践リーダー研修の理解」「自施設における実習の課題設定」「自施設実習評価」

日時：2024年11月20日・11月26日・12月27日（第1回）

場所：いちゅい具志川じんぶん館

29. 氏名：大嶺 ちひろ（管理栄養士）

講義名：沖縄市生活支援サポーター養成講座（沖縄市委託事業）

テーマ：「高齢者の栄養問題」

日時：2025 年 2 月 6 日

場所：タピックこども館

30. 氏名：安村 勝也（作業療法士）

テーマ：「地域見守りにおける認知症への気づきと対応」

日時：2024 年 5 月 16 日

場所：普天間 3 区公民館

主催：宜野湾市普天間 3 区地域支え合い活動委員会

31. 氏名：安村 勝也（作業療法士）

テーマ：「認知症について」

日時：2024 年 6 月 5 日

場所：宜野湾市老人福祉センター

主催：普天間中学区民生委員協議会

32. 氏名：安村 勝也（作業療法士）

テーマ：Expert Session ～令和 6 年能登半島地震 JRAT 活動～

日時：2024 年 6 月 8 日

場所：沖縄リハビリテーション福祉学院

主催：一般社団法人 沖縄県作業療法士会

33. 氏名：朝倉 賢祐（作業療法士）

テーマ：市民公開講座『ものわすれ市民公開講座～脳の健康を保つために～』

認知症治療病棟での多職種連携と作業療法士の役割

日時：2024 年 9 月 7 日

場所：沖縄市福祉文化プラザ交流ホール

共催：Eisai

沖縄リハビリテーションセンター病院 認知症疾患医療センター

後援：（公社）認知症の人と家族の会 沖縄県支部、沖縄県

34. 氏名：安村 勝也（作業療法士）

テーマ：認知症を深める～Well-bing の視点から～

日時：2024 年 10 月 3 日

場所：リザンシーパークホテル谷茶ベイ

主催：宜野湾市民生委員児童連絡会・真志喜中学校区民生委員

35. 氏名：安村 勝也（作業療法士）

テーマ：生活支援見守りサポート養成講座～認知症疾患医療センターとは～

日時：2024 年 11 月 14 日

場所：ケアハウスていんさぐぬ花

主催：沖縄市地域包括支援センター西部南・西部北

36. 氏名：朝倉 賢祐（作業療法士）

テーマ：臨床実習指導者講習会フォローアップ研修～実習指導相談会～

日時：2025年1月25日

場所：沖縄リハビリテーションセンター病院

主催：一般社団法人 沖縄県作業療法士会

37. 氏名：眞川 花織（言語聴覚士）

講義名：失語症者向け意思疎通支援事業支援者養成講習会

日時：2024年8月24日、10月5日

場所：沖縄県総合福祉センター

38. 氏名：照喜名 重寿（主任介護支援専門員）

講義名：ペアーレ幸寿大学 「終末期を考える」

日時：2024年11月8日

場所：ペアーレ沖縄タピック

39. 氏名：森田 ひとみ（社会福祉士）

講義名：沖縄市包括支援センターの役割

日時：2024年4月25日

場所：沖縄市役所

40. 氏名：宮城 尚美（キャラバンメイト）・森田 ひとみ（キャラバンメイト）

城間 清美（キャラバンメイト）

講義名：認知症サポーター養成講座

日時：2024年7月30日

場所：沖縄市福祉センター

41. 氏名：宮城 尚美（キャラバンメイト）・城間 清美（キャラバンメイト）

講義名：認知症サポーター養成講座

日時：2024年11月14日

場所：沖縄市ていんさぐぬはな

42. 氏名：森田 ひとみ（社会福祉士）

講義名：沖縄市生活支援サポーター養成講座「地域で活用できる公的支援」「ボランティアの心得」

日時：2025年2月20日

場所：タピックこども館

43. 氏名：城間 清美（生活支援コーディネーター）

講義名：沖縄市生活支援サポーター養成講座「尊厳の保持と自立支援」

日時：2025 年 2 月 27 日
場所：タピックこども館

44. 氏名：宜野座 智光（看護師）

講義名：感染経路別予防策
日時：2024 年 11 月 25 日
場所：宮里病院

45. 氏名：新垣 真梨子（精神保健福祉士）

会名：アルコール関連問題支援者研修会
役割：講師
日時：2024 年 9 月 10 日
場所：中部保健所 3 階研修室

46. 氏名：安村 勝也（作業療法士）

「客観的臨床能力試験（OSCE）」講師派遣
日時：2024 年 7 月 18 日
場所：琉球リハビリテーション学院

執筆

1. 氏名：宮里 好一（医師）

テーマ：『リハビリテーションのこれから』
掲載書籍等：日本リハビリテーション病院・施設協会
役員コラム New letter No.66 2025 年 3 月 1 日

2. 氏名：宮里 好一（医師）

テーマ：『精神科医療とリハビリテーション医療の充実は、時代の課題解決に欠かせない』
掲載書籍等：日本精神科病院協会雑誌 第 44 巻・第 1 号 2025 年 1 月 P38

3. Tezuka Y, So R, Fukuda T.

The effectiveness of an ultra-brief intervention in 1min for hazardous drinking in a general hospital setting: a quasi-randomized pilot trial.
Psychiatry Clin Neurosci Rep. 2024;3:e216.

4. 氏名：手塚 幸雄（医師）

テーマ：＜特別企画＞病気未満のアディクション 適応と依存症のあいだ
「救急外来・総合病院リエゾンの風景」
掲載書籍等：日本評論社 こころの科学 2024 年 9 月号 通巻 237 号 82-86 ページ 2024 年 8 月

5. 氏名：手塚 幸雄（医師）

テーマ：救急対応のエビデンス・エクスペリエンスをぎゅうっとまとめました

「精神科医の『身体疾患を否定してください』はどこまで求めているの？」

掲載書籍等：メジカルビュー社 救急対応のエビデンス・エクスペリエンスをぎゅうっとまとめました
199-201 ページ 2024 年 10 月

6. 氏名：前田 悠佑（薬剤師）

テーマ：「海外の薬剤師の活動③マラウイにおける薬剤師の活動」

掲載書籍等：日本病院薬剤師会雑誌 60 (9) 958-962. 2024

学会発表

学会名：回復期リハビリテーション病棟協会 第 45 回研究大会 in 札幌

大会テーマ：Be ambitious! 学んで前へ ～ 24 年度同時改定を力に変えるために～

日時：2025 年 2 月 21 日～22 日

会場：札幌コンベンションセンター

1. 発表者：和宇慶 亮士（作業療法士）

共同演者：平 勝也（理学療法士）、金城 ユリ子（看護師）、大城 将平（社会福祉士）、
上原 勇介（事務）、仲西 孝之（理学療法士）、宮里 好一（医師）

演題名：当院回復期リハビリテーション病棟におけるスタッフコールの現状

2. 発表者：長濱 友希（看護師）

共同演者：安慶名 誠（看護師）、稲葉 圭吾（看護師）、垣花 美智江（看護師）

演題名：看護師による退院前家屋訪問の意義

3. 発表者：小渡 麻理子（作業療法士）

共同演者：知念 亜紀子（医師）、真栄城 あかね（理学療法士）

演題名：C5 不全頸髄損傷患者の自己導尿獲得への取り組み～導尿モデルの活用～

学会名：第 120 回日本精神神経学会学術総会

日時：2024 年 6 月 20 日～22 日

会場：札幌コンベンションセンター

4. 発表者：手塚 幸雄（医師）

シンポジウム：アルコール依存症の臨床現場を変革する：次世代のアルコール依存症臨床家を育む研修
プログラム

演題名：依存症の Off-the-Job 研修に求めるもの

学会名：2024 年度日本アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会

日時：2024 年 9 月 19 日～21 日

会場：砂防会館（東京都）

5. 発表者：手塚 幸雄（医師）

シンポジウム：医療機関・地域でのアルコール問題早期介入

演題名：Ultra-BI プログラムの紹介

6. 発表者：手塚 幸雄（医師）

シンポジウム：アルコール依存症治療における精神科と内科の連携

演題名：依存症専門医療機関から総合病院に医師が出張しリエゾン診療を行う「架け橋モデル」

7. 発表者：手塚 幸雄（医師）、幸地 睦子（作業療法士）

ワークショップ：「問題解決しない事例検討会」リターンズ

～クライアントのとらえ直しと地域連携 そして支援者支援～

演題名：「問題解決しない事例検討会」沖縄での実践

学会名：リハビリテーション・ケア合同研究大会 山梨 2024

日時：2024 年 10 月 3 日～4 日

会場：山梨県甲府記念日ホテル

8. 発表者：高野 圭史（言語聴覚士）

共同演者：宮城 章子（看護師）、垣花 美智江（看護師）、和宇慶 亮士（作業療法士）、

大城 清貴（合同会社 Comer 看護師）

演題名：「口から食べる」を支援するプロジェクト ～食事支援スキル向上への取り組み～

9. 発表者：久田 友昭

共同演者：花城 瑠奈（事務）、大城 将平（社会福祉士）、山田 隆一郎（脳神経外科 東横浜病院）、

仲西 孝之（理学療法士）

演題名：回復期病棟入棟前に独居生活していた高齢者が独居退院に至る要因の検討

10. 発表者：上地 大樹（介護福祉士）

共同演者：仲松 善孝（介護福祉士）、新里 梓（理学療法士）、外間 若奈（言語聴覚士）、仲宗根 力（医師）

演題名：在宅復帰への取り組み～自宅退所の障害となっている課題へのアプローチ～

11. 発表者：松川 和（介護福祉士）

共同演者：宮里 由乃（理学療法士）、奥平 悦津子（作業療法士）

演題名：特定施設入居者生活介護サービスにおける早期からの個別介入が ADL 能力向上にもたらす効果

学会名：第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

日時：2024 年 8 月 30 日～31 日

会場：福岡県

12. 発表者：坂元 千亜季（看護師）

共同演者：狩俣 舞子（看護師）、金城 ユリ子（看護師）、仲宗根 涼太（作業療法士）、

内間 沙紀（言語聴覚士）、垣花 美智江（看護師）、大城 清貴（合同会社 Comer 看護師）

演題名：高齢で食思低下があり低栄養を有するクライアントへの食支援

～KT バランスチャートを活用した多職種協同を試みて～

学会名：2025 年イーストタピック看護・介護ケア実践研究発表会

日時：2025 年 1 月 31 日

会場：沖縄リハビリテーションセンター病院 新館 6 階講堂

13. 発表者：幸地 良潤（看護師）

共同演者：東江 若奈（看護師）、垣花 美智江（看護師）

演題名：身体拘束ゼロを続けるために～職員アンケートを通して上半期の対策を振り返る～

学会名：第 30 回 沖縄県介護老人保健施設大会

日時：2025 年 2 月 21 日

会場：ダブルツリーby ヒルトン那覇首里城

14. 発表者：與那覇 祐子（介護福祉士）

共同演者：伊波 沙織（介護福祉士）、仲本 浩紀（介護福祉士）、天野 健一（介護福祉士）、

外間 若奈（言語聴覚士）、長田 元樹（作業療法士）、仲宗根 力（医師）

演題名：常同行動（自己刺激）と生活リズムを改善しストレス緩和に取り組んで

～本人にあった余暇活動とチームアプローチ～

学会名：第 39 回沖縄県看護研究学会学術集会

日時：2025 年 2 月 15 日

会場：沖縄県看護協会

15. 発表者：仲尾次 のぞみ（看護師）

共同演者：伊芸 太一（看護師）、照屋 益美（看護師）

演題名：転倒を繰り返す認知症高齢者の症例を振りかえる

－認知症治療病棟の転倒対策プログラム作成に向けて－

座長

学会名：2024 年度日本アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会

日時：2024 年 9 月 19 日～21 日

会場：砂防会館（東京都）

担当ジャンル・テーマ：シンポジウム アディクションシーンの最前線

1. 氏名：手塚 幸雄（医師）

学会名：リハビリテーション・ケア合同研究大会 山梨 2024

日時：2024 年 10 月 3 日～4 日

会場：甲府記念日ホテル 常磐ホテル

担当ジャンル・テーマ：一般演題 チームアプローチ

2. 氏名：久田 友昭（理学療法士）

担当ジャンル・テーマ：一般演題（ポスター発表） 入所系サービス

3. 氏名：東江 若奈（看護師）

学会名：回復期リハビリテーション病棟協会第 45 回研究大会 in 札幌

日時：2025 年 2 月 21 日～22 日

会場：札幌コンベンションセンター

担当ジャンル・テーマ：一般演題 摂食嚥下・栄養

4. 氏名：屋嘉比 優美（看護師）

担当ジャンル・テーマ：ポスター発表 1-2 退院支援・家族支援・地域連携 2

5. 氏名：神里 桂子（社会福祉士）

一般口演：スタッフ教育・人材育成・働き方改革 1

6. 氏名：和宇慶 亮士（作業療法士）

学会名：沖縄県言語聴覚士会令和6年度症例検討会

日時：2025年2月16日

会場：大浜第一病院

7. 氏名：高野 圭史（言語聴覚士）

学会名：第19回沖縄県作業療法学会

日時：2024年6月8日

会場：沖縄リハビリテーション福祉学院

担当ジャンル・テーマ：一般演題 口述発表「教育」

8. 氏名：安村 勝也（作業療法士）

査読

学会名：第19回沖縄県作業療法学会

日時：2024年6月8日

会場：沖縄リハビリテーション福祉学院

1. 氏名：安村 勝也（作業療法士）

学会名：九州作業療法学会 2024 In 大分

日時：2024年6月22日～23日

会場：J:COM ホルトホール大分

2. 氏名：安村 勝也（作業療法士）

院内研修会・勉強会・研究大会・委員会報告会

院内勉強会等2024		
実施日	内容	実施者・担当
2024年4月1日	新人教育プログラム	教育研修委員会
2024年4月1日	新館4階 タピックフロアマネジメント（TFM）短時間通所デイクア	地域ホール
2024年4月2日	新館4階 勉強会「ROHOクッションの使用方法について 他、車椅子クッションの紹介」	新館4階
2024年4月5日	新館4階 手指衛生フィードバック	新館4階
2024年4月9日	新館5階 勉強会「GLIM基準」	新館5階
2024年4月10日	新館3階 TFM ラペ/定期巡回	新館3階
2024年4月15日	リハ部 新プロ「電子カルテ操作」	リハ部門
2024年4月17日	リハ部 新プロ「リセプター制度」	リハ部門
2024年4月18日	新館4階 ホールカンファレンス	新館4階
2024年4月18日	新館5階 TFM あわせヘルパー	新館5階
2024年4月22日	新館2階 勉強会「GLIM基準」	新館2階
2024年4月22日	新館4階 リハ部 新プロ「新人教育マニュアル」説明会	リハ部門
2024年4月23日	新館2階 TFM 「あわせ訪問看護」ステーション	新館2階
2024年4月23日	新館3階 リハ部 新プロ「新人教育マニュアル」説明会	リハ部門
2024年4月25日	新館5階 リハ部 新プロ「新人教育マニュアル」説明会	リハ部門
2024年4月26日	新館3階 勉強会「GLIM基準」	新館3階
2024年4月30日	リハ部 新プロ「入院から退院までの流れ」説明会	リハ部門
2024年5月8日	リハ部 新プロ「リスク管理」説明会	リハ部門
2024年5月10日	リーダー研修 パートⅠ	教育研修委員会
2024年5月13日	リハ部 新プロ「目標設定」説明会	リハ部門
2024年5月13日	新館3階勉強会 「在宅酸素療法」	新館3階
2024年5月13日	新館4階 TFM プライムガーデンうるま	新館4階
2024年5月14日	新館2階 TFM 認知症デイクア	新館2階
2024年5月15日	リハ部 新プロ「評価」説明会	リハ部門
2024年5月16日	新館5階 TFM 「短時間通所リハ」	新館5階
2024年5月16日	新館4階 勉強会「接遇」	新館4階
2024年5月16日	新館3階 勉強会「安全と抑制」	新館3階
2024年5月17日	沖縄回復期リハ病棟協会 第36回研修会（事務局）	沖縄リ協
2024年5月23日	新館3階 TFM ●●	新館3階
2024年5月27日	新館4階 ホールカンファレンス	新館4階
2024年5月28日	新館4階 ホール勉強会「シーティング」	新館4階
2024年5月28日	リハ部門PT 新プロ「CVA評価」	PT課
2024年5月30日	リハ部門OT 新プロ「認知症について」	OT課
2024年5月31日	児童精神科WG勉強会 「パーツについて」	児童精神科WG
2024年6月3日	新館4階 TFM ラペ・定期巡回	新館4階
2024年6月4日	リハ部門 勉強会「HAL」	リハ部門
2024年6月7日	リハ部門OT 新プロ「OT専門班 生活行為班」	OT課
2024年6月11日	新館2階 TFM 「あわせヘルパーステーション」	新館2階
2024年6月12日	新館3階 TFM 「高次脳デイクア」	新館3階
2024年6月15日	マネジメント研修 パートⅠ	教育研修委員会
2024年6月20日	新館5階 TFM 「あわせ訪問看護」ステーション	新館5階
2024年6月21日	新館2階 ホールカンファレンス	新館2階
2024年6月27日	リハ部門PT 新プロ「CVA班」	PT課
2024年7月1日	感染対策委員会 研修会「年間報告」	感染対策委員会
2024年7月1日	新館4階 TFM 認知症デイクア	新館4階
2024年7月9日	新館2階 TFM プライムガーデンうるま	新館2階
2024年7月10日	新館3階 TFM 「短時間通所リハ」	新館3階
2024年7月12日	2年目研修	教育研修局
2024年7月17日	新館5階 「急変時対応の練習」 新館6階リハ室	新館5階
2024年7月18日	新館5階 TFM デイサービスあわせ	新館5階
2024年7月18日	新館4階 「急変時対応の練習」 新館6階リハ室	新館4階
2024年7月19日	新館2階 「急変時対応の練習」 新館6階リハ室	新館2階
2024年7月19日	新館3階 医療安全転倒予防勉強会	新館3階
2024年7月22日	新館2階 「急変時対応の練習」 新館6階リハ室	新館2階
2024年7月23日	新館5階 「急変時対応の練習」 新館6階リハ室	新館5階
2024年7月24日	新館4階 ホールカンファレンス	新館4階
2024年7月24日	新館3階 「急変時対応の練習」 新館6階リハ室	新館3階
2024年7月26日	リハ部門PT 新プロ「整形班」	PT課

実施日	内容	実施者・担当
2024年7月26日	児童精神科WG勉強会「脳・自律神経系と防衛反応」	児童精神科WG
2024年7月30日	リハ部門PT CVA班勉強会	PT課
2024年7月31日	新館3階「急変時対応の練習」新館6階リハ室	新館3階
2024年7月31日	リハ部門OT「FMA・MAL評価勉強会」	OT課
2024年8月5日	新館4階 TFM「あわせヘルパーステーション」	新館4階
2024年8月6日	新館4階「急変時対応の練習」新館6階リハ室	新館4階
2024年8月7日	新館3階 TFM「あわせ訪問看護」	新館3階
2024年8月8日	新館4階 勉強会「認知症対応」	新館4階
2024年8月9日	レギュラー研修	教育研修局
2024年8月9日	リハ部門PT 新プロ「整形班」	PT課
2024年8月9日	児童精神科WG勉強会「脳の発達」	児童精神科WG
2024年8月13日	新館2階 TFM「短時間通所リハ」	新館2階
2024年8月15日	新館5階 TFM ラ・ペ、定期巡回サービス	新館5階
2024年8月16日	リハ部門OT 勉強会「身体機能班：上肢装具オムニレクサ」	OT課
2024年8月19日	リハ部門OT 勉強会「身体機能班：上肢装具オムニレクサ」	OT課
2024年8月19日	リハ部門 勉強会「スマート+（車いす）の構成実技講習」	リハ部門
2024年8月20日	リハ部門OT 勉強会「身体機能班：上肢装具オムニレクサ」	OT課
2024年8月20日	新館4階 KYT勉強会	新館4階
2024年8月21日	リハ部門OT 勉強会「身体機能班：上肢装具オムニレクサ」	OT課
2024年8月22日	リハ部門 OT全体研修 ●●	OT課
2024年8月23日	リハ部門OT 勉強会「身体機能班：上肢装具オムニレクサ」	OT課
2024年8月23日	新館4階 ホールカンファレンス	新館4階
2024年8月27日	新館4階 勉強会「上肢免荷機器momoの紹介」	新館4階
2024年8月28日	リハ部門 PT全体研修「装具」	PT課
2024年8月29日	新館4階 勉強会「シーティング」	新館4階
2024年8月30日	中堅研修パートⅠ	教育研修局
2024年9月2日	新館4階 TFM「高次脳デイクア」	新館4階
2024年9月6日	新館4階 勉強会「運転再開」	新館4階
2024年9月6日	マネジメント研修パートⅡ	教育研修局
2024年9月7日	リハ部門 PT「2年目症例検討会」	PT課
2024年9月10日	新館2階 TFM「デイスサービスあわせ」	新館2階
2024年9月11日	新館3階 TFM「認知症デイクア」	新館3階
2024年9月12日	新館4階 ホールカンファレンス	新館4階
2024年9月13日	新入職中期研修	教育研修局
2024年9月17日	新館4階 勉強会「身体抑制最小化」	新館4階
2024年9月19日	新館5階 TFM「プライムガーデンうるま」	新館5階
2024年9月20日	新館2階 ホールカンファレンス	新館2階
2024年9月21日	イースタピック研究大会	教育研修局
2024年9月25日	「VF・VE症例検討会」	ST課、看護部、栄養課
2024年9月27日	新館4階「離床係活動報告会」	新館4階
2024年9月30日	新館4階 勉強会「食事動作の姿勢評価と介入方法」	新館4階
2024年10月1日	医療安全管理委員会 研修会「医療事故調査制度」	医療安全委員会
2024年10月4日	新館4階 勉強会「医療安全、コミュニケーション」	新館4階
2024年10月7日	新館4階 TFM「あわせ訪問看護」	新館4階
2024年10月8日	新館2階 TFM「ラペ・定期巡回」	新館2階
2024年10月9日	新館3階 TFM「あわせヘルパーステーション」	新館3階
2024年10月11日	リーダー研修 パートⅡ	教育研修局
2024年10月17日	新館5階 TFM「高次脳デイ」	新館5階
2024年10月19日	沖縄回復期リハ病棟協会 第11回研究大会（事務局）	沖回リ協
2024年10月22日	新館5階 勉強会「FIM」	新館5階
2024年10月24日	リハ部門 PT勉強会「インソール」	PT課
2024年10月25日	新館4階 ホールカンファレンス	新館4階
2024年10月25日	新館5階 勉強会「FIM」	新館5階
2024年10月29日	新館4階 勉強会「FIM」	新館4階
2024年10月31日	「VF・VE症例検討会」	ST課、看護部、栄養課
2024年11月6日	新館2階 勉強会「FIM」	新館2階
2024年11月8日	中堅研修パートⅡ	教育研修局
2024年11月11日	新館2階 ホールカンファレンス	新館2階
2024年11月11日	新館4階 TFM「百歳堂デイクア」	新館4階
2024年11月12日	新館2階 TFM「訪問リハ」	新館2階
2024年11月13日	新館3階 TFM「亀の里」	新館3階
2024年11月15日	児童精神科WG勉強会「神経発達証を知る① 自閉スペクトラム障害」	児童精神科WG

実施日	内容	実施者・担当
2024年11月18日	「シーティング勉強会」	シーティング班
2024年11月21日	新館5階 TFM 「外来リハ」	新館5階
2024年11月21日	新館4階 勉強会 「リフト」	新館4階
2024年11月25日	リハ部門 PT CVA班 勉強会 「痙性」	PT課
2024年11月25日	新館3階 勉強会「FIM」	新館3階
2024年11月27日	新館4階 ホールカンファレンス	新館4階
2024年11月29日	リハ部門 OT「2年目症例検討会」	OT課
2024年12月1日	感染対策委員会 研修会「水痘・麻疹・風疹・流行性耳下腺炎、血液培養検査」	感染対策委員会
2024年12月5日	新館2階 TFM 「地域包括支援センター西部南」	新館2階
2024年12月5日	新館3階 勉強会 「BLS」	医療安全委員会
2024年12月6日	リハ部門 OT 「2年目症例検討会」	OT課
2024年12月6日	リフレクション研修	教育研修局
2024年12月10日	新館2階 TFM 「外来リハ」	新館2階
2024年12月11日	新館3階 TFM 「地域包括支援センター西部南」	新館3階
2024年12月13日	中途入職者研修	教育研修局
2024年12月13日	リハ部門 ST勉強会	ST課
2024年12月13日	児童精神科WG勉強会 「神経発達証を知る② 自閉スペクトラム障害の診断」	児童精神科WG
2024年12月19日	新館5階 TFM 「地域包括支援センター西部南」	新館5階
2024年12月19日	「VF・VE症例検討会」	ST課、看護部、栄養課
2024年12月19日	新館2階 勉強会 「BLS」	医療安全委員会
2024年12月26日	新館3階 ホールカンファレンス	新館3階
2024年12月26日	新館5階 勉強会 「医療安全」	新館5階
2025年1月7日	新館4階 TFM	新館4階
2025年1月8日	新館3階 TFM 「沖縄ケアサポートセンター」	新館3階
2025年1月14日	新館2階 TFM 「沖縄ケアサポートセンター」	新館2階
2025年1月15日	新館4階 ホールカンファレンス	新館4階
2025年1月16日	新館5階 TFM 「沖縄ケアサポートセンター」	新館5階
2025年1月16日	「VF・VE症例検討会」	ST課、看護部、栄養課
2025年1月16日	BLS研修リハ職 新館4階	医療安全委員会
2025年1月27日	新館3階 ホールカンファレンス	新館3階
2025年1月27日	リハ部門 PT 伝達 「全国研修会」	PT課
2025年1月28日	リハ部門 PT CVA班 勉強会 「脳画像」	PT課
2025年1月30日	新館2階 ホールカンファレンス	新館2階
2025年1月30日	新館4階 勉強会 「ベッドセンサー調整」	新館4階
2025年1月30日	BLS研修リハ職 新館5階	医療安全委員会
2025年2月1日	医療安全管理委員会 研修会「MRIの医療安全対策」	医療安全委員会
2025年2月1日	マネジメント研修 パートⅢ	教育研修局
2025年2月3日	新館4階 TFM 「訪問リハ」	新館4階
2025年2月7日	マネジメント研修 パートⅢ	教育研修局
2025年2月10日	リハ部門 HAL勉強会	リハ部門
2025年2月13日	「VF・VE症例検討会」	ST課、看護部、栄養課
2025年2月13日	BLS研修リハ職 新館2階	医療安全委員会
2025年2月14日	児童精神科WG勉強会 「神経発達症を知る④ 感覚に対するアプローチ」	児童精神科WG
2025年2月14日	マネジメント研修 パートⅢ	教育研修局
2025年2月13日	シーティング勉強会	シーティング班
2025年2月18日	新館2階 TFM 「百歳堂」	新館2階
2025年2月20日	新館5階 TFM 「亀の里」	新館5階
2025年2月20日	新館4階 勉強会 「医療安全」	新館4階
2025年2月26日	リハ部門 PT 伝達 「脊損学会」	PT課
2025年3月3日	新館4階 TFM	新館4階
2025年3月3日	新館4階 勉強会 「FIM」	新館4階
2025年3月7日	プレゼンテーション研修会・新人教育プログラム2025相談会	教育研修局
2025年3月11日	新館2階 TFM 「タビック定期巡回ケアステーション」	新館2階
2025年3月11日	プレゼンテーション研修会・新人教育プログラム2025相談会	教育研修局
2025年3月12日	新館3階 TFM 「タビック定期巡回ケアステーション」	新館3階
2025年3月13日	「VF・VE症例検討会」	ST課、看護部、栄養課
2025年3月18日	リハ部門 CVA勉強会 「視床の機能解剖」	リハ部門
2025年3月18日	新館4階 ホールカンファレンス	新館4階
2025年3月19日	BLS研修リハ職 新館3・5階	医療安全委員会
2025年3月21日	児童精神科WG勉強会 「神経発達症を知る⑤ 学習障害」	児童精神科WG
2025年3月24日	リハ部門 PT 伝達 「運動器学会」	PT課
2025年3月27日	新館5階 TFM 「認知症デイケア」	新館5階
2025年3月28日	リハ部門 PT 伝達 「リハ医学会」「予防学会」	PT課
		※TFM：タビックフロアマネジメント

イーストタピック研究大会 2024

テーマ：疾風知勁草～よりやさしく、しなやかで、たくましく～

開催日：2024年9月21日

開催場所：新館6階講堂（ハイブリット）

大会長：宮里 好一（タピック代表）

実行委員長：富盛 宏（沖縄リハビリテーションセンター病院 副院長 医師）

内容：講演および指定演題（9演題）、シンポジウム

【講演】

テーマ：これまでの介護・これからの介護～よりやさしく、しなやかで、たくましくあるために～

講師：磯部 香奈子 氏（医療法人社団輝生会 船橋市立リハビリテーション病院回復期支援部マネージャー）

【指定演題】

- ・ 演題 1. 1年3ヶ月の介護主任活動を振り返る～役割を通しての気づきと学び～
発表者：新垣 秀樹（看護・介護統括部 主任 介護福祉士）
- ・ 演題 2. 「介護職員のやりがいと質向上委員会」の取り組みと変化
～介護福祉士業務の質向上を目指した体制づくり～
発表者：崎浜 礼子（宮里病院 看護部長 看護師）
- ・ 演題 3. 「口から食べる」飲びをクライアントと共に～あきらめない心で～
発表者：宮城 章子（看護・介護統括部 副部長 看護師）
- ・ 演題 4. 安全文化の醸成が、クライアントと職員の安全を守る～医療安全専従看護師の活動～
発表者：玉城 朱美（医療安全管理部 医療安全担当マネージャー 看護師）
- ・ 演題 5. かなさんホールの活動報告と今後の課題
発表者：池村 功（本館4階メディカルホールかなさん マネージャー 看護師）
- ・ 演題 6. リハビリテーション部業務改善の取り組み
～リハ提供実績の改善とリーダーとのコミュニケーション～
発表者：平 勝也（リハビリテーション部 部長 理学療法士）
- ・ 演題 7. 精神科長期入院のクライアントに実践した退院支援の経過報告
～“現在（いま）”の思いに寄り添い、サポートする～
発表者：盛島 美帆（本館5階メディカルホールちむがんじゅう 作業療法士）
- ・ 演題 8. 本館7階ゆいまーるホール 認知症治療病棟開設による課題と展望
～多職種連携による重度認知症患者のトイレ動作が習慣化できた事例を通して～
発表者：安村 勝也（本館7階メディカルホールゆいまーる サブマネージャー 作業療法士）
- ・ 演題 9. 理学療法士が有料老人ホーム管理者としてできることは何か？
～特定施設入居者生活介護サービスにおける課題と展望～
発表者：宮里 由乃（プライムガーデンうるま 施設長 理学療法士）

【シンポジウム】

テーマ：タピック介護のこれまでとこれから～介護職のやさしさ、しなやかさ、たくましさ～

座長：富盛 宏（沖縄リハビリテーションセンター病院 副院長 医師）

シンポジスト：

磯部 香奈子（船橋市立リハビリテーション病院 回復期支援部マネージャー 介護福祉士）

新垣 秀樹（看護・介護統括部 主任 介護福祉士）

安里 翼（本館7階メディカルホールゆいまーる リーダー 介護福祉士）

上里 亜美（地域ホール デイサービスあわせ 介護福祉士）

當間 剛（宮里病院 看護部 主任 介護福祉士）

看護・介護実践研究発表会 2024

日時：2025年1月31日

場所：新館6階 講堂

司会：金城 利哉（副実行委員長）オリエンテーション

開会挨拶：看護介護統括部 部長 金城 悦子

《第1部》座長：リード 知子（新館2階 看護師）

- ・演題1. 「身体拘束における本館6階キャストの意識調査」

発表者：池田 晃清（本館6階ちむがんじゅうホール 看護師）

- ・演題2. 「支援に難渋したクライアントからの学び

～認知機能障害を有し、不穏や粗暴行為の顕著なクライアントとの出会い～

発表者：新垣 恵美（新館5階ていだホール 看護師）

- ・演題3. 「クライアントの理解を助け、看護師をアシストする検査案内

～パンフレットの作成と活用後の評価～

発表者：具志堅 綾香（外来ひんぷんホール看護師）

- ・演題4. 「身体拘束ゼロを続けるために～職員アンケートを通して上半期の対策を振り返る～」

発表者：幸地 良潤（亀の里 看護師）

《第2部》座長：當山 久枝（外来 看護師）

- ・演題5. 「精神科長期入院クライアントへの退院支援

～クライアントの希望を尊重した多職種連携によるサポート～

発表者：平川 健一（本館5階なかゆくいホール 看護師）

- ・演題6. 「急性期・開放病棟におけるアルコール依存症クライアントへの支援を考える

～症例対照分析で示唆された行動変容ステージモデルの有用性～

発表者：太田 莉里花（本館4階かなさんホール 看護師）

- ・演題7. 「入職3年目のヒストリカル・スタディ被殻出血クライアントの回復過程と自宅退院に向けた支援」

発表者：當銘 真季（新館4階ちゅうらうみホール 看護師）

- ・演題8. 「看護師による退院前家屋訪問の意義」

発表者：長濱 友希（新館2階はいさいホール 看護師）

《第3部》座長：北 敏博（亀の里 看護師）

- ・演題9. 「TENA オムツ導入による排泄ケアの見直し」

～キャストの疲労（負担感）軽減とクライアントへの個別ケア意義の高まり～

発表者：安里 翼（本館7階ゆいまーるホール 看護師）

- ・演題10. 「A回復期リハ病棟の介護記録を通じた多職種連携における現状と課題」

発表者：大城 武也（新館4階ちゅうらうみホール 介護福祉士）

- ・演題11. 「外国人技能実習生を受け入れて～実習生の指導・支援の課題と成果を明らかにする～」

発表者：山本 溪斗（新館3階ゆいんちホール 介護福祉士）

- ・演題12. 「キアリ奇形1型にて四肢麻痺・呼吸管理の必要なクライアントに対する入退院支援看護師と連携した退院支援」

発表者：又吉 大（新館4階ちゅうらうみホール 看護師）

活動報告：医療安全管理部 宜野座 智光「～感染管理認定看護師として～」

講評：副院長 垣花 美智江

閉会挨拶：実行委員長 野呂 ひとみ

その他の業績

1. 氏名：手塚 幸雄（医師）

日本医療教育プログラム推進機構

ホスピタリスト医学プログラム 査読者

2. 氏名：手塚 幸雄（医師）

内容：第 18 回、第 19 回 沖縄 PEEC コース ファシリテーター

日時：2024 年 6 月 30 日、2025 年 3 月 2 日

場所：琉球大学 50 周年記念館

主催：沖縄県

3. 氏名：手塚 幸雄（医師）、幸地 睦子（作業療法士）、石川 章旗（作業療法士）、杉浦 彩乃（作業療法士）

内容：那覇市第 1 回・第 2 回問題解決しない事例検討会

日時：2024 年 6 月 28 日、2025 年 3 月 11 日

場所：那覇市役所

主催：那覇市基幹相談支援センター

5. 氏名：新垣 真梨子（精神保健福祉士） コーディネーター

内容：公益社団法人全日本断酒連盟第 38 回九州ブロック（沖縄）大会記念講演パネルディスカッション

日時：2024 年 6 月 9 日

場所：アイム・ユニバースてだこホール（大ホール）

8. 氏名：森田 ひとみ（社会福祉士）

内容：沖縄市在宅医療介護連携推進会議：年 4 回

日時：2024 年 5 月 27 日、2024 年 8 月 26 日、2024 年 11 月 25 日、2025 年 2 月 25 日

場所：沖縄市役所

9. 氏名：森田 ひとみ（社会福祉士）

内容：沖縄市虐待防止講演会

日時：2024 年 11 月 20 日

場所：沖縄市産業交流センター

10. 氏名：森田 ひとみ（社会福祉士）

内容：沖縄市虐待防止ネットワーク会議

日時：2025 年 2 月 6 日

場所：沖縄市役所

《院内研修》

1. 氏名：仲村 友貴（理学療法士）、宮里 由衣（理学療法士）

研修名：PT 新人教育講習会-整形外科疾患の評価・治療-

日時：2024 年 7 月 26 日、8 月 9 日

2. 氏名：大嶺 啓（医師）、大城 史子（医師）、比嘉 丈矢（医師）、楠木 力（理学療法士）、
新里 舜（理学療法士）

研修名：第5期タピックアスレティックトレーナー養成講習会

日時：2024年4月20日、6月15日、8月17日、10月19日、12月14日、1月18日

3. 氏名：大嶺 啓（医師）、大城 史子（医師）、楠木 力（理学療法士）、新里 舜（理学療法士）

研修名：タピックアスレティックトレーナーブラッシュアップ講習会

日時：2024年12月14日

《派遣事業》

1. 氏名：新里 舜（理学療法士）

大会：少年サッカー九州ブロック大会

日時：2024年8月7日～9日、8月15日～19日

内容：沖縄県代表少年サッカーチームへのトレーナーサポート

2. 氏名：新里 舜（理学療法士）

大会：沖縄市国際ユースサッカー親善フェスティバル

日時：2024年12月7日～8日

内容：沖縄県代表少年サッカーチームへのトレーナーサポート

3. 氏名：新里 舜（理学療法士）

大会：沖縄県高等学校男子サッカー競技大会

日時：2025年1月25日～27日

内容：名護高校サッカーチームへのトレーナーサポート

4. 氏名：大嶺 啓（医師）、大城 史子（医師）、比嘉 丈矢（医師）、楠木 力（理学療法士）、

仲村 友貴（理学療法士）、森本 忍（看護師）、上原 宏子（看護師）、太田 莉里花（看護師）、

大城 みどり（看護師）、古堅 宗英（看護師）、小渡 麻里子（作業療法士）、

眞川 花織（言語聴覚士）、堀江 友子（理学療法士）

大会：第30回 おきなわマラソン大会

日時：2025年2月16日

内容：医療救護班

5. 氏名：大城 史子（医師）、三好 晋爾（医師）、楠木 力（理学療法士）、仲村 友貴（理学療法士）、

森本 忍（看護師）、稲葉 圭吾（看護師）、嘉数 功平（作業療法士）

大会：第38回ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント

日時：2025年3月5日～9日

内容：医療救護班

《院外活動》

1. 派遣職員：高宮城あずさ（理学療法士）、花城夏希（理学療法士）、久田友昭（理学療法士）

内容：北中城村短期集中予防サービス

日時：2024 年 6 年 4 月～2025 年 3 月 毎週水曜日・金曜日

場所：北中城村総合社会福祉センター

2. 氏名：久田 友昭（理学療法士）

内容：介護予防教室（健やかクラブ）

日時：2024 年 4 月 2 日・23 日、5 月 28 日

場所：那覇市地域包括支援センター小禄

3. 氏名：久田 友昭（理学療法士）

内容：介護予防「体力測定会」（地域包括支援センターかなぐすく・山下町老人会）

日時：2024 年 6 月 20 日

場所：那覇軍用地等地主会館

4. 氏名：久田 友昭（理学療法士）

内容：那覇市地域リハビリテーション活動支援事業（フレイル予防）

日時：2024 年 8 月 20 日

場所：小禄自治会館

5. 氏名：久田 友昭（理学療法士）

内容：北中城村短期集中予防サービス（がんじゅうアップ教室）

日時：2025 年 3 月～ 毎週金曜日（10：00～12：00）

場所：北中城村総合社会福祉センター

6. 氏名：手塚 幸雄（医師）

内容：厚生労働省 令和 6 年度 地域連携による依存症早期発見、早期対応、継続支援モデル事業
依存症専門医療機関から総合病院へ医師が出張しアルコールリエゾン診療を行う
「架け橋モデル」を実践

7. 氏名：手塚 幸雄（医師）

内容：南大東村アルコール相談

日時：2024 年 4 月 20 日 10 月 7 日 12 月 9 日（オンライン）

2024 年 8 月 31 日 9 月 1 日 2025 年 1 月 30 日 31 日（現地）

場所：南大東村保健センター

8. 氏名：手塚 幸雄（医師）

内容：令和 6 年度 救急医等専門研修（精神身体合併症）（東京都 PEEC）ファシリテーター

日時：2024 年 10 月 20 日

場所：東京都医師会館

主催：東京都医師会（東京都）

《その他の業績》

5 月 17 日 沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第 36 回研修会（当院事務局）

10月19日 沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第11回研究大会（当院事務局）

1月24日 沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第37回研修会（当院事務局）

ホールカンファレンス

1. 開催ホール：新館2階メディカルホールはいさい

発表者：伊佐 光平（理学療法士）

共同演者：田崎 温子（医師）、金城 正光（看護師）、平良 好海（作業療法士）、佐々木 美幸（言語療法士）、
照喜名 舞（栄養士）、照屋 智教（社会福祉士）

テーマ：入院中、再梗塞を起こし退院後生活に向けた各職種の取り組み、残存課題について

日時：2024年9月20日

目的：退院後の生活を想定しチームでの取り組み内容を共有する。

概要：60代、男性、診断名は脳幹出血、独居生活。ADL自立され運転も時折行っていた。本人の希望として、普通のご飯が食べられて普通に歩きたいであった。身体機能が徐々に改善し、退院後の生活イメージを本人と共有した。タクシーの乗り降り練習や、近隣のコンビニまで買い物練習などを実施。嚥下面は障害理解が不十分であったため、テキストを配布し、本人と目的からリスク管理まで一緒にテキストを見ながら確認を行った。目標に対して、各職種で取り組み、院外リハビリの活用や、テキストを使用した取り組みが行えた。

2. 開催ホール：新館2階メディカルホールはいさい

発表者：安里 優介（作業療法士）

共同演者：大城 史子（医師）、兼久 由紀（看護師）、栗国 朝晴（理学療法士）、佐々木 美幸（言語聴覚士）、
照喜名 舞（栄養士）、照屋 智教（社会福祉士）

テーマ：自宅退院後の生活について ～当院地域サービスの利用で分かったこと～

日時：2024年11月11日

目的：退院後の生活を理解し、退院に至るまでのプロセスで得られた教訓や今後の改善点をホール全体で共有し、リハケアの質向上に繋げる。

概要：60代、男性、診断名は脳梗塞、独居生活。既往に2回脳梗塞あり。家族は転帰先を施設で希望されるが、本人の強い希望にて自宅退院となる。自宅退院に向けて、家屋調査や地域サービスの調整をチーム・家族・ケアマネジャーと連携を図る。また、独居生活でもあるため、特に地域サービスへの連携は強化を図った。実際に自宅退院となったが、チームで描いていた方向性とは異なるも地域サービスとの連携の強化を図っていたということもあり、スムーズな介入が行え独居生活が継続して行えた。

3. 開催ホール：新館2階メディカルホールはいさい

発表者：森谷 瞳（言語聴覚士）

共同演者：田崎 温子（医師）、伊禮 明日香（看護師）、金城 恒太（理学療法士）、祖慶 大地（作業療法士）、
照喜名 舞（栄養士）、照屋 智教（社会福祉士）

テーマ：多職種の関わりが有効であった失語症へのアプローチ

日時：2025年1月30日

目的：失語者への多職種連携による生活に即したリハビリの提案、失語症友の会や退院支援の関わりを共有する。

概要：診断名は出血性脳梗塞。実用的コミュニケーション度は中等度、ADLは自立、流暢性失語で理解は

中等度、右同盟半盲を認めていた。入院時から心理面の不安定さ、病識の低下を認めていた。心理士介入し心理面のサポート、失語症を理解する機会としてご家族と失語症友の会への参加を提案した。また、買い物や化粧も取り入れ、余暇時間には実用的なコミュニケーション訓練を介護士・看護師と実施した。退院後は、当院の高次脳デイケアに繋ぎ、活動を通して就労支援にも前向きな発言が聞かれるようになった。

4. 開催ホール：新館 3 階メディカルホールゆいんち

発表者：平井 未来（看護師）

共同演者：比嘉 淳（医師）、魚住 海（介護福祉士）、谷川 大騎（理学療法士）、
運天 勝樹（作業療法士）、玉城 梢（言語聴覚士）、中山 舞（社会福祉士）

テーマ：肩の疼痛訴えによる頻コールのクライアントの対応について

日時：2024 年 12 月 26 日 参加者 32 名

目的：現状を全体で共有し、今後クライアントが落ち着いていけるようケアやリハの介入方法を検討する

概要：70 歳代男性 脳梗塞 現状、横になって寝ると「肩が痛い」、起きると「足が痛い」と繰り返しクライアントとキャストの関係性が対立関係になっている状況があった。対応の仕方やケアについて今一度考え直し、チーム内の共有だけでなく、キャスト全体で情報共有を行った。疼痛軽減については、原因の追究（心理面、認知面、感覚や身体イメージは？）、姿勢やポジショニングの方法等について共有を行った。ケア面については、静かな環境よりも騒がしい空間の方が落ち着く傾向があるといった意見あった。少しでもクライアントにとってポジティブな要素があればそれをしっかりと記載し、その情報を共有することで、より良い関係性の構築に繋がると思われる。

5. 開催ホール：新館 3 階メディカルホールゆいんち

発表者：仲底 晴之介（理学療法士）

共同演者：田崎 温子（医師）、藤山 真子（看護師）、魚住 海（介護福祉士）、小橋川 直（作業療法士）、
新垣 華恋（言語聴覚士）、島袋 正也（社会福祉士）

テーマ：自宅退院クライアントの振り返り～退院後のサービス利用・復職支援について～

日時：2025 年 1 月 27 日 参加者 24 名

目的：回復期リハ病棟退院後の経過を共有し、今後のチームアプローチに活かしていく

概要：40 歳代男性 右被殻出血 退院後に身体機能向上、復職に向けて外来リハビリ、高次脳デイケアを利用。約 3 か月後に高次脳デイケア利用日に直接本人、スタッフへ退院後の状況について聞き取りを実施。本人の困っていることや悩み事、過ごし方（サービス利用状況、生活活動範囲、本人の役割/楽しみ等）について共有した。退院後の理想と現実の違いによるメンタル面の低下が見られていた。入院中にどのようなサポートができるか、入院中/退院後の課題をより明確にすることで本人と見えない課題を確認できると感じた。また、退院後の地域事業所との情報共有もとても大事と感じた。

6. 開催ホール：新館 4 階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：狩俣 舞子（看護師）、崎浜 恵子（介護福祉士）、山城 大樹（理学療法士）、下門 莉緒菜（作業療法士）
内間 沙紀（言語聴覚士）

テーマ：基本動作自立の評価・達成可能な目標設定について

日時：2024 年 4 月 25 日

概要 :50 代、左被殻出血のクライアント、Brunnstrom Stage 上肢 2 手指 2 下肢 4 レベル。基本動作は把持物があれば寝返り可能、起き上がりは介助、移乗は中等度介助、長時間の座位で姿勢崩れあり。動作時の麻痺側上下肢の忘れが多く体幹の安定性も低い。ADL はトイレ動作が一人介助で調子がよければ方向転換可能。2 か月後に退院を予定しているため ADL を自立にもっていく必要があるが思っていたよりも機能面でも ADL 面でも回復が進んでいないケースについて、リハ介入方法に関する意見交換を行った。参加者からは、退院時歩行レベルを独歩としているが回復が遅く自立は難しいと考えられる。まずは起居動作の自立が大事なので手すりの活用や段階付けした訓練の推奨、L 字バーの活用、機能面を発揮できる介助方法の統一、廃用レベルの上肢への介入方法等について助言が得られた。

7. 開催ホール：新館 4 階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：又吉 大(看護師)、崎浜 恵子(介護福祉士)、宮良 知里(理学療法士)、竹村 星詩留(作業療法士)、玉城 梢(言語聴覚士)

テーマ：病識に乏しくリハに積極的ではない活動性の低いクライアントに対して何ができるか考える。

日時：2024 年 5 月 27 日

概要：主病名はキアリ奇形第 1 奇形、脊髄空洞症の術後、気管切開術後。精神発達遅滞、慢性甲状腺炎。気管カニューレ装着中。元々は障害者雇用で労働されていたクライアント。現在の ADL は移動車椅子介助で移乗トイレ整容動作は自立で入浴は介助。肩の痛みがあり車椅子駆動や整容更衣動作に支障あり。他にも両膝や足部の痛みあり。病識にも乏しく将来的に治癒していくと考えている様子でリハビリに対しても積極的ではなく受け身的な部分が垣間見られるため、機能や ADL 向上にむけて何かできることがないか意見交換を行った。車椅子は自己駆動にこだわらず電動車椅子の検討をしてみようか？ ドライヤーホルダー等の福祉用具の活用、上肢操作が不要なスリッパイン式の靴の使用、徒手療法での痛みの緩和方法等について参加者から助言が得られた。また、主となるご家族の障害理解にも問題があると感じられたため主に相談するキーパーソンの調整についての課題もあがった。

8. 開催ホール：新館 4 階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：金城 祥貴(看護師)、喜納 直樹(介護福祉士)、知念 貞幸(理学療法士)、仲宗根 涼太(作業療法士)

テーマ：離床を促すと怒りだし、食事や入浴への誘導がうまくいかないケース

日時：2024 年 7 月 24 日

概要：主病名は外傷性硬膜下血腫、多発外傷。80 代の男性。身体面は声かけが上手くいけば軽介助で手すりを把持して立位保持できるが、基本的には介助量が多く自分からは動こうとされないケース。記憶の保持時間も短く昔の記憶も曖昧。現在の主な問題点は、部屋から出たがらない(起きない)、食事も入浴も誘導しづらい、起こすと怒るため本来であればご本人の意向を尊重し無理矢理の誘導は望ましくないが、栄養や衛生面を考えると結果的に強引に誘導する形となっている。1 時間くらい話かけるとスムーズに誘導できることはあるが現実的ではなく離床を促す方法について意見交換を行った。前回にも入院歴があり、前回の担当者が介入すると穏やかになる日があることや「奥さんの紹介で来た」等と伝えると比較的協力的になること、医師やご家族の誘導へは協力的である等の情報が集まり、あらためて反応の良い時の情報の共有や分析の必要性について参加者より助言が得られた。

9. 開催ホール：新館 4 階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：金城 利哉(看護師)、大原 玲温(理学療法士)、末吉 泰成(作業療法士)

テーマ：本人の訴えがなく、本人の意志をくみ取ることができず、求めている対応がわからないケース
～パート 1 ケースの状況まとめ編～

日時：2024 年 8 月 23 日

概要：40 代男性、疾患名は右心原性脳梗塞、心身症のクライアント。今回の発症後より左半身の麻痺(軽度)出現。高次脳機能面は精査困難。動作が緩慢で状況によって動作の遂行にムラあり。基本動作は歩行見守り、声かけがあるまで動作を行わず待機している事が多い。その為朝ご飯を食べた後に声かけがあるまではずっと座っていて移動時にふらつきみられることもあった。拒否はなく言われた通り動いてくれる事が多いが動いてくれない事もあり、最近では表情や眉の動きで拒否している仕草が少し読み取れるようになった。現在のリハ・ケア介入は本人のペースに合わせて実施しているが、コミュニケーション方法はどうしたらよいか、評価が難しく関わりの中でどのように関わったらよいかについて意見交換を行った。精神科病院へ入退院を繰り返しており診断名は心身症。いじめや近親者の他界などを境にして状態が増悪しADL面やコミュニケーションで介助が必要になっている経緯もあり。今回のカンファでは介入の糸口が見つからないため、次月のカンファの際に精神科の専門キャストへ依頼し助言を得る事とした。次月へ続く。

10. 開催ホール：新館 4 階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：金城 利哉(看護師)、大原 玲温(理学療法士)、末吉 泰成(作業療法士)

テーマ：本人の訴えがなく、本人の意志をくみ取ることができず、求めている対応がわからないケース
～パート 2、本館(精神科)職員のからのアドバイス編～

日時：2024 年 9 月 12 日

概要：8 月 23 日に開催したホールカンファレンスでまとめた内容について、本館(精神科)の CP、Ns、PSW に参加していただき、症状の捉え方や対応方法について助言をいただいた。精神科の専門職の捉え方としては交感神経優位で警戒モードの様な防衛反応が出現している可能性がある事や知的レベルの問題、発症の起点となったイベントとの関係等があげられ、対応方法について「安心できる場所作りが必要」「心を開くのは簡単なことではない、無理に開かなくてもいいというかわり方」「この人だったら、この時間だったらうまく関われるかもしれないという評価」「介入者の統一」「慣れた環境作り」「ご家族への苦手を人について確認することも大事」「前院への情報提供の協力依頼」等の助言をいただいた。回復期病棟キャストと異なる評価視点があり、助言をふまえて意見交換したことにより回復期病棟側キャストからもこれまでは想像していなかった介入方法の提案が得られた。

11. 開催ホール：新館 4 階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：金城 利哉(看護師)、宮良 知里(理学療法士)、兼久 亜希子(作業療法士)

テーマ：ひとりになると不穏となり大声をだすクライアントへの対応

日時：2024 年 10 月 25 日

概要：80 歳代女性、主病名は右大腿骨転子部骨折術後のクライアント。既往にアルツハイマー型認知症、双極性感情障害、躁うつ病、統合失調症。移動は車椅子介助、他のADLも軽介助レベル。主な問題点の一つに、デイルーム離床時や居室から大声でスタッフを呼ぶ(叫ぶ)。寄り添い傾聴することで落ち着かれることもあるがスタッフが離れると再び大声を出す行為があり、その対策について意見交換をおこなった。リハ等の 1 対 1 の関わりなのであまり困らないが、それら以外の時間では対応に苦慮するため、ホワイトボードを活用したスケジュール(今は何をしています次は何をする)の表示やタブレットを使用した動画視聴(昔趣味にされていたボーリング等)、他クライアント(よく話しかけてくれる)との席の配置の調整、分割食や捕食の提供、話が盛り上がりやすい話題をまとめたマニュアルの作成等について参加者から助言が得られた。

12. 開催ホール：新館 4 階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：知念 貞幸(理学療法士)、嘉数 功平(作業療法士)

テーマ：離床時間確保につなげるための活動について考える

日時：2024 年 11 月 27 日

概要：60 代男性、頸髄損傷（C3-4）、四肢麻痺。食事は見守り。他はほぼ全介助レベル。本人は移乗自立レベルを目標にしており自宅復帰を希望しているがチームとしては難しいと考えているケース。現在の退院先は老健で調整しているため退院後の個別リハ時間が減少するが、リハ食事時間以外はベッド臥床しているため入院中から離床時間を増やしたいと考えており、座位での活動促しや離床時間をどのように確保していくかについて意見交換をおこなった。能力的には3時間ほど離床可能なレベルで趣味も多彩な方であったため、座位でスマホを操作できる環境調整の方法や臥位で動きやすい状態にするためのマットレスの選定などについて助言が得られ、今後の ICT デバイスや機器の必要性、アクセシビリティの活用等についての課題も確認できた。

13. 開催ホール：新館 4 階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：兼城 早希(理学療法士)、仲間 優莉(作業療法士)、森田 千里(言語聴覚士)

テーマ：動作緩慢・非協力的・指示の理解力の低さなどがあり介入に難渋するケース

日時：2025 年 1 月 15 日

概要：80 代男性、診断名は脳挫傷、外傷性くも膜下血腫。転倒・誤嚥リスクあり。口答指示理解は良好で起立移乗見守り～軽介助で可能。上下肢に明らかな麻痺は無くリハは歩行訓練や立位バランス訓練、座位での体幹強化、トイレ動作、簡単な注意課題など行っているが動作が停滞するため、機能的には高いレベルにあるが改善に繋がづらいケースについて、動作を促す方法や環境調整の方法などについてディスカッションを行った。動作の緩慢さがリハやケアの進行に支障を来しているケースであったが、無理に動作をすすめると感情的になり怒り出す場面もみられるため、比較的受け入れやすい介入時間の調整や現実的かつ本人も理解しやすい目標設定、感情が変化する場面の分析などについて参加者より助言が得られた。

14. 開催ホール：新館 4 階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：坂元 千亜季(看護師)、狩俣 寛史(理学療法士)、下門 莉緒菜(作業療法士)、呉屋 文呉(言語聴覚士)

テーマ：疲労感や不安が強く訴えも多いクライアント。本人が興味をもち遂行できる活動(座位)をどのように提供していけるかについて考える。

日時：2025 年 3 月 19 日

概要：50 歳代、女性、急性硬膜下血腫のクライアント。ADL は起居動作、端座位は軽介助～見守りレベル、移乗は軽介助、移動はリクライニング車椅子使用で全介助、スピーチバルブ使用しているケース。入院時の腰部殿部痛は軽減し約3時間の離床が可能だが活動していない時や疲労時には臥床希望がある。問題点として、臥床時間が多いことや不安の訴えやスタッフコールも多いため、メンタルの低下にも配慮しながら臥床時間を減らし、離床を促したいがどのような対応や活動を促していけば良いか?という点についてディスカッションを行った。参加者からは難易度や成功体験を得られる課題の調整や声かけ方法の統一、介入時間の調整、ご家族への協力依頼の推進等について助言が得られた。

15. 開催ホール：新館 5 階 メディカルホールていーだ

発表者：新垣 恵美 (看護師)

共同演者：上原 美沙（理学療法士）、宮里 仁也（作業療法士）、謝花 江里香（言語聴覚士）

テーマ：小脳出血・粗暴行為のある症例について

日時：2024 年 9 月 6 日

目的：ホールキャスト全体で情報共有を行い、統一した介入でクライアント、キャスト双方の安全対策について考える

概要：40 代女性、小脳出血。入院時より体動激しく、ベッド柵などに足や手を打ちつけ内出血も多数あり。また失語により自分の思いを伝えられないことや NG チューブ自己抜去予防のために終日ミトン装着であったためイライラやストレスありキャストへの粗暴行為もみられていた。キャスト全体で一日のリハスケジュール内容・その他の時間状況、粗暴行為の内容、入院環境（安全対策内容）、本人の精神面についての状況などすべてを共有し、対応を検討。覚醒時間は常にキャストが付き添っている状況であったため担当キャストだけでの対応にも難渋していたのでホールカンファレンスをきっかけにその後は退院まで全体で対応する状況へとつながった。

小論文

看護師による退院前家屋訪問の意義



長濱 友希（新館2階メディカルホールはいさい 看護師）

稲葉 圭吾（看護師）、安慶名 誠（看護師）、垣花 美智江（看護師）

【はじめに】

当院では、在宅復帰を目指すクライアントに対し、退院支援の一環として主にセラピストが退院前家屋訪問（以下、訪問）を実施しており、看護師による実施は少ない。そこで、以下4つの目的（①クライアントを取り巻く自宅環境の理解、②クライアントの退院支援、社会参加に対する関心、③受け持ちクライアントに対する担当者意識の向上、④回復期リハ看護の楽しさ、やりがいを感じる）を達成するために、経験型学習の一つとして看護師の同行訪問を実施した。本研究では、家屋訪問による学びや気づき、意識の変化など、リハ看護師による訪問の意義、教育効果について報告する。

【対象と方法】

当院、回復期リハビリテーション病棟1病棟（40床）に所属する看護師20名にて、2023年10月から2024年11月末までの期間で同行訪問を実施。訪問後に記述式アンケートとインタビューを実施し、結果についてカテゴリー分類・分析を行った。

【結果】

期間中、全看護師が1回以上同行できるよう日程を調整し、全員が同行訪問を経験した。訪問後のアンケート結果として「訪問の目的」は、夜間の生活動線、介護者との介護方法のすり合わせが主であり、「気づき」については、同行することで、病棟では気づけない自宅内での過ごし方や看護の視点による課題の明確化、介護に対する家族の不安の共有が挙げられた。「メリット」は対象者全員がありと認識していた。訪問後の取り組みは、夜間の排泄方法の変更、福祉用具の提案があり、インタビューでは、訪問後、「受け持ち担当意識の向上」「リハビリ看護としての役割が理解できた」との感想が聞かれた。

【考察】

回復期リハビリテーション病棟では、看護ケアの役割の一つとして退院後の生活を描けることとしている。訪問は、「患者をとりまく環境の理解」、「在宅への退院支援」、「リハビリ看護師としての役割」に関する認識を深めた。また、訪問後の新たな介入は、リハビリ看護師として、退院後を見据えたアプローチへの意識が高まり、社会的支援を踏まえた退院支援へつながったと考える。

今後、看護師による訪問を継続することで、地域で暮らす対象であることを踏まえた幅広い視点での回復期リハビリ看護の提供、社会的支援を含めた退院支援が行える。また、退院支援の質向上による看護師自身のやりがいやスキルアップに繋がることが期待できる。

<参考文献>

- 1) 石鍋圭子（2002）：「多職種チームの中で常に問われるアイデンティティ」リハビリテーション専門看護（第2版）、医歯薬出版株式会社
- 2) 植村研一（1990）効果を高める講義の原則 大脳生理学に裏付けされたテクニック、看護教育
- 3) 梶山直子、金子晶子、鈴木純恵（2011）：リハビリテーション病棟で働く看護師のやりがい、獨協医科大学看護学部紀要

回復期病棟入棟前に独居生活していた高齢者が独居退院に至る要因の検討

久田 友昭（新館3階メディカルホールゆいんち 理学療法士）

花城 瑠奈（診療情報管理士）、大城 将平（社会福祉士）、山田 隆一郎（理学療法士）

仲西 孝之（理学療法士）



【はじめに】

高齢者の増加に伴い、独居高齢者も増加傾向にある。今後、回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期病棟）においても独居高齢者の退院支援が増えてくると予測される。今回、回復期病棟入棟前に独居生活であった高齢者（65 歳以上）が独居退院に至る要因を退棟時の ADL に着目して検討した。

【対象と方法】

2023 年 4 月～2024 年 3 月の期間に当院回復期病棟を退棟した入棟前独居の高齢者 148 名を対象とした。対象者の内訳は男性 55 名、女性 93 名、平均年齢 78.5 歳であり、運動器疾患患者が 91 名、脳血管疾患患者が 44 名、廃用症候群患者が 13 名であった。調査項目は、臨床的背景因子（年齢、性別、疾患、発症から退院までの日数）、転帰先（自宅、施設）、退棟時 ADL（FIM 運動項目、FIM 認知項目）とした。対象者は転帰先で独居群と施設群の 2 群に分けた。統計学的解析は、転帰先を従属変数、退棟時 FIM を独立変数としたロジスティック回帰分析を行なった。モデル 1 として FIM 運動項目、モデル 2 として FIM 認知項目を投入した。調整変数として各モデルに臨床的背景因子を投入した。抽出された因子については、カットオフ値とその予測能を求めた。

【結果】

独居群 108 名、施設群 40 名であった。解析の結果、転帰先を判別可能な因子は FIM 運動項目（オッズ比：1.10）および FIM 認知項目（オッズ比：1.28）であった。また、独居退院が可能となるかを判別するためのカットオフ値は FIM 運動項目が 72 点（感度：0.83、特異度：0.84）、FIM 認知項目が 28 点（感度：0.88、特異度：0.72）であった。

【考察】

FIM 運動項目・FIM 認知項目のカットオフ値ともに先行研究と近い値となった。独居退院のためには退院時に FIM 運動項目 70 点以上、FIM 認知項目 28 点以上の ADL、つまり独立したセルフケアの獲得が必要であることが示唆された。

<参考文献>

- 1) 木村優斗 他 回復期リハビリテーション病棟における独居退院及び同居退院に関する因子－FIM を運動項目と認知項目に細分化した検討－ 道南医学会ジャーナル第 2 号 2019 年 2：21-23
- 2) 辻哲也 他 入院・退院時における脳血管障害患者の ADL 構造の分析－機能的自立度評価法（FIM）を用いて－ リハビリテーション医学 33 巻 5 号 1996 年 301-309

【結果】 群間比較		
	独居群（n=108）	施設群（n=40）
年齢（歳）	77.3 ± 7.8	81.9 ± 7.6
性別（男性／女性）、人（%）	36（33.3）／72（66.7）	36（33.3）／72（66.7）
疾患別の割合 人（%）		
運動器疾患	72（66.7）	19（47.5）
脳血管疾患	27（25.0）	17（42.5）
廃用症候群	9（8.3）	4（10.0）
発症から退院までの日数（日）	78.1 ± 34.8	125.1 ± 54.3
FIM 運動項目（点）	78.4 ± 11.4	48.6 ± 21.7
FIM 認知項目（点）	29.8 ± 5.7	20.1 ± 6.5

【考察】

FIM運動項目

- ・ 40点以上→自宅復帰の可能性が高まる
- ・ 50点～60点→介護者が必要
- ・ **70点以上→セルフケアが自立群となり介護者が不要となる傾向**

FIM認知項目

- ・ 20点後半→同居退院に必要な認知機能
- ・ **30点以上→独居退院に必要な認知機能**

今回のカットオフ値
FIM運動項目：72点（過去報告と同等）/FIM認知項目：28点（やや低値）

↓

独居退院の否かを判断するための参考値と妥当な値であると考えられた。

参考文献：回復期リハビリテーション病棟における独居退院及び同居退院に関する因子 道南医学会ジャーナル第2号 2018
脳血管障害患者のADL構造の分析－機能的自立度評価法（FIM）を用いて－ リハ医学 1996

高齢で食思低下があり低栄養を有するクライアントへの食支援 ― KT バランスチャートを活用した多職種協働を試みて ―



坂元 千亜季（新館4階メディカルホールちゅうらうみ 看護師）

狩俣 舞子（看護師）、金城 ユリ子（看護師）、仲宗根 涼太（作業療法士）、内間 沙紀（言語聴覚士）

垣花 美智江（看護師）、大城 清貴（合同会社 Comer 看護師）

【はじめに】

当院では高齢者の入院増加に伴い、食べる機能が低下したクライアントが多く存在し食へのアプローチが課題である。入院時、各専門職種で食べる機能の評価を行なっているが、その結果からは、どう関わって良いかヒントが得にくいと感じていた。その様な折、院内に「口から食べるプロジェクト」が発足し、摂食嚥下認定看護師によるコンサルトを受ける機会を得た。食思低下で栄養管理が必要なクライアント1名にKT（口からたべる）バランスチャート（以下、KTBC）を用いて評価し、支援を試みた。

【対象と方法】

90代、女性。疾患名右大腿骨頸部骨折術後。対象者のKTBCの変化を介入前・介入後に分け変化を比較、検討した。

【結果】

KTBC の評価から①認知機能②食べる意欲③食事動作④食物形態⑤栄養項目が低スコアであった。改善に向け、作業療法士と食事に集中できる姿勢調整や環境づくり、自助具の工夫を行い、栄養士と食事場面を確認しながら食事形態と食事量の調整を行った。その後、意欲の向上が図れ、食事動作の自立に繋がった。また、高スコアを活かし食事形態の積極的な調整により経口摂取を促進できた。

【結論】

KTBC を用いた食支援は、対象者の全体像を把握し、適切な介入方法や連携の強化に繋がり、効率的・効果的な支援につながる事が示唆された。



<参考文献>

- 1) 小山珠美：口から食べる幸せをサポートする包括的スキル
P129-130
- 2) 小口和代：食べたいを全力で支えるケア
- 3) リビリテーション医学 2017.9：vol.54 嚥下障害に対する新たなアプローチ
- 4) リハビリナース Vol.16, No5, 2023
- 5) 小山珠美編：口から食べる幸せをサポートする包括的 スキル―KT バランスチャートの活用と支援―第2版, 医学書院, 東京, 2018, p12-9

Nutritional Support for Elderly Clients with Decreased Appetite and Malnutrition
: An Attempt at Interdisciplinary Collaboration Using the KT Balance Chart

Tapic Medical Corporation Okinawa Rehabilitation Center Hospital¹⁾

Comer LLC²⁾

Chiaki Sakamoto¹⁾ Maiko Karimata¹⁾ Yuriko Kinjo¹⁾ Ryota Nakasone¹⁾

Saki Uchima¹⁾ Michie Kakinohana¹⁾ Kiyotaka Oshiro²⁾

【Background】

With the increase in elderly hospitalizations, our hospital faces challenges with clients who have a decreased ability to eat, making approaches to food intake a significant issue.

At admission, each professional evaluates the client's eating function, but it has been difficult to derive actionable insights from these assessments.

Amidst these challenges, the hospital launched an "Eating by Mouth Project," providing opportunities for consultation with certified dysphagia nurses.

For a client in need of nutritional management due to decreased desire to eat, we attempted support using the KT (Kuchi kara Taberu, Eating by Mouth) Balance Chart (hereinafter referred to as KTBC). KTBC enabled us to visualize challenges in food intake, changes post-intervention, facilitate interdisciplinary support, and achieve self-feeding for the client.

We reflected on this process and verified the usefulness of the KTBC.

【Methods:】 The subject was a woman in her 90s. Diagnosis: Post-surgery for right femoral neck fracture. We compared and examined changes in the client's KTBC before and after intervention.

【Results:】 The issues identified by the KTBC improved, which enhanced motivation for eating, led to independence in eating activities, and promoted oral intake.

【Conclusion:】 Nutritional support using the KTBC allows for the clarification of issues, approaches to solving these issues, and visualizing the client's changes post-intervention.

This suggests that using the KTBC strengthens interdisciplinary collaboration and leads to efficient and effective support.

Sharing and visualizing changes in clients can increase both clients and staff's motivation towards support for eating by mouth.

C5不全頸髄損傷患者の自己導尿獲得への取り組み ～導尿模型の活用～



小渡 麻理子（新館5階メディカルホールていだ 作業療法士）

知念 亜紀子（医師）、真栄城 あかね（理学療法士）

【はじめに】

頸髄損傷者の排尿管理において尿路感染症予防の観点からも自己導尿は必要であるが自己導尿が獲得できる最上位はC5Bレベルと言われている。症例はC5Aレベルであったが不全損傷であったことから自己導尿獲得を目標に介入した。症例に対し導尿模型を活用することで自己導尿を獲得した経過、アセスメントを報告する。

【対象と方法】

60歳代 男性 診断名：頸椎亜脱臼、頸髄損傷、C4-6 脊柱管狭窄症 Ope：C4-5 後方固定、C3 部分椎弓切除、C4-6 椎弓形成術。Zancolli の分類：右 C5A、左 C6A、G&R：左右手指困難。起居・移乗動作：中等度介助、立位：軽度介助。FIM：49/126（運動 14、認知 35）、SCIM：10/100（セルフケア 0、呼吸と排泄管理 10、移動 0）。

C5 レベルであるが巧緻動作や認知レベル、意欲等を踏まえ、自宅退院を見越して自己導尿獲得を目標とすることを本人と共有し作業療法を進めた。手指巧緻動作や自己導尿に向けて、実際のカテーテルつまみ動作や導尿動作に必要な清潔動作などを模擬的に実施し、段階付けとしてより導尿に関してもイメージをしてもらうためにも看護師よりキョウトカガク製品の「導尿模型」を利用することを勧められ開始した。自己導尿をするにあたり、自律神経過反射など排泄障害による患者教育も実施し、導尿のタイミングなどをチームで検討し介入した。

【結果】

身体的にも自己導尿動作を獲得し、自覚症状がなくても時間や血圧管理などで導尿するタイミングなどを決められ、自己導尿が出来るようになり ADL 向上に繋がった。

【考察】

Zancolli レベルと ADL 自立度は決まっており、自己導尿が獲得できる最上位はC6BレベルであるいはC7の残存機能があれば自己導尿の検討ができるとされているものの、関節拘縮や左右の機能障害差、そして本人の技量などが影響する要因が多いとされている。

症例はC5Aレベルであるが不全麻痺であるため、できる機能や能力を見極め、模擬練習や導尿模型にて訓練することで実際に導尿する際のイメージにも繋がり、導尿動作に必要な「つまみ、持続的把持」を獲得できたと考える。

＜参考文献＞

- 1) 脊髄損傷における下部尿路機能障害の診療ガイドライン [2019 年版]
- 2) 快適な排泄をめざすセミナー 間歇導尿指導認定セミナーテキスト
- 3) 完全頸髄損傷への合併症対策—排尿管理・排便管理— J Rehabil Med Vol. 60 No. 12 2023

沖縄回復期リハビリテーション病棟協会15年間の活動報告



和宇慶 亮士（教育研修局 作業療法士）

平 勝也（理学療法士）、金城 ユリ子（看護師）、大城 将平（社会福祉士）、
上原 勇介（事務）、仲西 孝之（理学療法士）、宮里 好一（医師）

【はじめに】

沖縄県には回復期リハビリテーション病棟（以下、回リハ）は離島も含め 21 病院 35 病棟 1489 床あり、10 万人対の病床数は 101 床と全国平均値 75 床より上回っている。

当協会は、沖縄県の回リハの質向上を図ることを目的に 2008 年に県内の回リハを有する病院間の情報交換や研修会の場として発足した。

今回、本協会の活動と課題、今後の活動について報告する。

【活動実績】

当協会は 13 の会員病院で構成し、活動は研究大会（年 1 回）と研修会（年 2 回）、運営委員会（年 6 回）を実施し、15 年間で計 10 回の研究大会と計 36 回の研修会を開催してきた。

研究大会は特別講演やシンポジウム、一般演題発表を実施。研修会は認知症や排泄ケア、教育、地域連携、専門性等について開催。2021 年より開催方法はいずれも対面から WEB へ変更し、研究大会は 2023 年より対面を再開した。

運営委員会は約 30 名（コメディカル中心）で 2020 年 8 月からは WEB にて開催。内容は診療報酬改定対応やカンファレンス、提供単位数、安全、感染、人員体制などについて協議。2021 年 12 月からは全体会と職種ごとの分科会の 2 部構成で開催。

その他、設立当初から運営委員メーリングリストを作成し、気軽にアンケートの実施や相談ができる体制を構築し、2023 年 12 月には当協会のホームページを作成・公開した。

【アンケート結果】

①運営委員会の実施方法、②研修会、研究大会、③年会費について、比較的「良い」との回答。コメントでは①WEB 会議が効率的で他施設との情報交換ができ、分科会も効果的、②オンラインのメリット、対面での交流、オンデマンド配信継続の希望、③妥当との回答。

【課題と今後の活動】

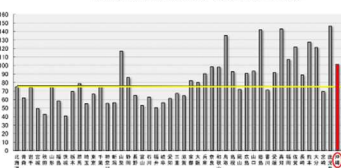
本県の地理的条件から県外への職員派遣には費用や勤務調整の面で容易ではないため、今後も県内での研究大会及び研修会の開催を継続し、ハイブリッドも検討する。また運営委員会は設立時に実施していた各会員病院回リハの「見学ツアー」の再開を検討し、医師の参加や交流を促進する。

沖縄県の回復期リハビリテーション病棟の状況

- ・施設数：21病院（35病棟）
- ・病床数：1,489床（対10万人：101床）

全国平均：75床
10万台に多い

都道府県別病床数：対10万人（2024年3月1日現在）



出所：県庁ホームページ

沖縄回復期リハビリテーション病棟協会

【設立】

- ・2008年7月

【設立目的】

- ・質的向上を図る

【事業内容】

- ・啓発活動
- ・教育研修事業
- ・情報共有・相互交流

【会員病院】

13病院（全国：16病院）

1. 沖縄メディカル病院
2. 大浜第一病院
3. 大浜第二病院
4. 大連中央病院
5. オリブ山病院
6. 勝山病院
7. かりゆし病院
8. 北中城若松病院
9. 豊見城中央病院
10. とよみ生協病院
11. 嶺井第一病院
12. 宮里病院
13. 沖縄リハビリテーションセンター病院



ホームページ



在宅復帰の取り組み ～自宅退所の障害となっている課題へのアプローチ～



上地 大樹（介護老人保健施設亀の里 介護福祉士）

仲松 善孝（介護福祉士）、新里 梓（理学療法士）、外間 若奈（言語聴覚士）、仲宗根 力（医師）

【はじめに】

今回、介護老人保健施設（超強化型）入所中の利用者で在宅復帰について本人、家族ともに不安を感じているケースを経験した。チームで課題を解決し、在宅復帰に繋げる事が出来たので報告する。

【対象と方法】

70代 女性 要介護3 日常生活自立度 B2・Ⅲb 主病名：心原性脳梗塞 右上下肢麻痺 失語症：重度

【課題・支援・結果】

I. ①コミュニケーション困難、②言語の自主訓練課題、余暇活動の提供、③YES—NO 選択で本人の訴えを知る事でき、余暇活動の中で職員と談笑出来るようになった。

II. ①精神的ケア、②職員からの声かけ、非日常的体験実施、③発語促進、不満や表情変化を組み取る事ができ、花や花火と一緒に見る事で、職員との関係性構築ができた。

III. ①歩行拒否、②段階的な歩行負荷量の調整、③体調に合わせた歩行対応が出来た。IV. ①排泄動作、②本人の能力にあった排泄方法評価、介護方法を家族と相談、③家族による排泄介助方法の獲得



【考察】

利用者の能力に合わせた声かけや花火鑑賞などの非日常体験を通し、利用者とのラポールが形成され、「自宅に帰りたい」という意欲を高める事が出来た。本人、家族の要望、課題を明確にし、チームで支援内容を検討、意向に沿ったアプローチにより在宅復帰に繋がった。また、家族への情報共有や介護指導により、在宅生活での不安が軽減でき、さらに自宅訪問も行った事で、安心感が生まれたと思われる。



<参考文献>

- 1) 筆頭著者名：寺田英史（クリアライブ合同会社） 質の高いリハビリサービスより
ND ソフトウェア株式会社（介護ソフトウェアトップシェア）
(2023 年 10 月 11 日所得、<https://www.ndsoft.jp/column/221655>)

常同行動（自己刺激）と生活リズムを改善しストレス緩和に取り組んで ～本人にあった余暇活動とチームアプローチ～



奥那覇 祐子（介護老人保健施設亀の里 介護福祉士）

伊波 沙織（介護福祉士）、仲本 浩紀（介護福祉士）、天野 健一（介護福祉士）、外間 若奈（言語聴覚士）、
長田 元樹（作業療法士）

【はじめに】

当施設は入所定員 80 名の在宅超強化型老健で他職種連携の下、利用者様や御家族が望む生活を支援する必要がある。今回、利用者様の常同行動（自己刺激）（以下、常同行動と略す）と夜間不眠で昼夜逆転が生じている事に対し、職員の関わりを通して常同行動の軽減や生活リズムの改善がみられたので、取り組んだ過程と経過について報告する。

【対象と方法】

令和 6 年 7 月～令和 6 年 10 月（3 ヶ月間）

50 代男性 要介護 4 自立度 B2. IIIa 右被殻出血術後 アルツハイマー型認知症

【経過】

令和 3 年 7 月に回復期病院から当施設へ転院、入所時より鉛筆やティッシュの異食行為、オムツいじりの失禁、掻きむしり行為により右腸骨部と大腿部に皮膚トラブルも見られた。また、歯ブラシや洋服を噛む行為で物が傷みやすく交換頻度も高く、夜間帯は不眠で昼夜逆転もあった。利用者様本人もコロナ禍による面会制限などから、刺激の少ない日常生活を日々繰り返している事が続き、ストレス要因の一つに繋がり常同行動と昼夜逆転に繋がっていると考え、多職種でアセスメントを行い、行動要因の課題を抽出。生活面と 1 日のスケジュールを見直し心理的安定と生活改善に向け、新たなスケジュールを作成し実践を試みた。

【取り組み】

多職種で毎日個別に関わる時間を設け、輪投げや家族との交換日記、お孫さんへのバースデーカードの作成、屋外散歩を行い、野菜や植物を眺め外部からの刺激に働きかけストレスの緩和に努めた。セルフケアも本人が出来ることや出来たことを職員が褒める声掛けを行い自信に繋がった。スケジュール以外にも、本人と日常会話で好むスポーツの話題を取り入れコミュニケーションを図った。

【結果】

取り組み開始後 1 か月頃から、睡眠時間の改善が見られた。開始前、3 時間～5 時間で入眠出来ない日や浅眠が多かったが、開始後 7 時間～8 時間入眠され生活リズムも改善した。また、職員との関わりを増やしたことで、笑顔になる場面が多くなり常同行動は日中の離床・臥床時も共に軽減。皮膚トラブルや歯ブラシを噛む行為がなくなり、歯ブラシの交換頻度も改善し歯科衛生士さんからも「歯ブラシを噛まなくなったね」との声も聞かれた。屋外散歩の際は、本人様から「販売機のコーヒーが飲みたい」と発言が聞かれ、家族との交換日記では、「家族に会いたい」と心理的欲求の声が聞かれるようになった。

【考察】

今回、本人の常同行動に対するチームアプローチはストレス緩和を図る為の手段として行った。そのままにしておく外傷や異食行為などの事故に繋がるリスクも十分に考えられる。

日常生活を見直すことでアセスメントの重要性や職員も利用者様に対する意識が変化した。日常の中で関わりを増やしたことで、本人のストレス緩和に繋がり、症状改善の要因になったと考える。

アセスメントする事で利用者様の課題を明確化し本人の日常生活を見直すきっかけになり、アセスメントの重要性を再認識した。

これからも老健の役割を忘れずに、個人の尊厳を守り、個々にあったケア方法を模索していきたい。

身体拘束ゼロを続けるために ～職員アンケートを通して上半期の対策を振り返る～



幸地 良潤（介護老人保健施設亀の里 看護師）

東江 若奈（看護師）、垣花 美智江（看護師/副院長）

【はじめに】

当施設の入所者は、年齢が80歳代で認知症の診断を受けている方が半数を占めている。施設では、入所者の「尊厳と主体性」・「人権」を守り、安全に過ごし、在宅での生活に繋ぐために身体拘束防止委員会を中心に職員全体で「拘束を必要としないケア」に取り組んでいる。今年度の上半期「拘束ゼロ」を達成することができた。引き続き、身体拘束を必要としないケアを継続するために中間評価として、スタッフの身体拘束に対する意識、拘束に代わるケア工夫を調査。その結果、身体拘束防止委員会の課題、ケアへの示唆を得たので報告する。

【目的と方法】

身体拘束防止委員会の取り組みの中間評価として、スタッフの身体拘束ゼロへの認識と拘束に代わるケア実践を調査し分析結果を拘束ゼロ継続に生かす。調査研究・アンケート調査 スタッフの身体拘束廃止・防止を意識したケア実践と委員会活動の評価対象：職員 40 名研究期間：令和 6 年 4 月～令和 6 年 10 月

【取り組み】

1. 身体拘束防止委員会の活動（①身体拘束防止委員を毎月 1 回開催 ②各フロアのラウンド③職員研修）2. 身体拘束ゼロに向けた入所者・家族への対応（家族への説明と同意 入所 1 週間で評価環境調整：ベッドの 4 点柵の固定は行わないよう、常に足元から降りる環境、車椅子の位置、床頭台、ポジショニングバー設置、必要時椅子を設置する（必要な方はセンサーマット） 巡視体制：日中、転倒リスクがある利用者は、職員の見守りを条件にデイルームで過ごしてもらう。夜間、1 時間毎に巡視し睡眠時間、覚醒の時間を確認）3. 拘束リスクの高い入所者への対応の実際（事例）事例 1：経鼻経管栄養のチューブの自己抜去を繰り返し誤嚥リスクのある方への対応。事例 2：胃瘻を造設された方への対応。事例 3：点滴の自己抜去のケースへの対応。事例 4：転倒リスク、自殺企図行為のある方への対応。

【考察・まとめ】

今年度、上半期に達成した身体拘束ゼロを継続するために「スタッフの身体拘束廃止・防止への認識」「拘束をしないケアへの取り組み」「身体拘束防止委員会活動」を問う職員アンケートを実施した結果、職員の身体拘束防止に対する意識の高さと「拘束しないケア」を選択し実践していることを確認することができた。又、家族及び多職種の協働で身体拘束を防ぐ支援として実施してきた「入院前の情報収集による抑制のリスク・居室内の環境調整を多職種で共有」「入所時の環境設定評価を多職種で点検・見直し」「入所時、拘束廃止の可能性・廃止への取り組み・カンファレンス・事故後の相談等家族の協力体制を築く」取り組みの定着も確認できた。「難渋事例に対応する際のスタッフの心理的葛藤の軽減」「転倒後のケア計画の評価と修正」「センサーマット等の活用による入所者と向き合う時間の捻出」が課題として上がった。身体拘束防止委員会の研修・ラウンドによる指導活動は、高い評価を受けたことから継続し、今回明らかになった課題に取り組むことで、下半期の「身体拘束ゼロ」達成を実現できると考える。課題である「転倒後の振り返り対策」は医療安全委員と協働し改善をしていきたい。

<参考文献>

- 1) 介護施設・事業所等で働く方々への身体拘束廃止・防止の手引き 令和 6 年 3 月発行
- 2) 身体拘束ゼロへの手引き 厚生労働省「身体拘束ゼロ作戦推進会議」 平成 13 年 3 月
- 3) 身体拘束ゼロの実践に伴う課題に関する調査研究事業報告書。2016
- 4) 縛らない看護に伴う転倒・転落リスクの管理-転倒・転落事故防止の具体策月間ナースマネージャー：2000
- 5) 患者の転倒・転落の予測はどこまで可能か EB NURSING12：2002
- 6) ベッド周りの環境学：医学書院 1996

理学療法士が有料老人ホーム管理者としてできることは何か？

～特定施設入居者生活介護サービスにおける課題と展望～



宮里 由乃（プライムガーデンうるま 理学療法士）

【はじめに】

病院や通所リハビリテーションでの臨床や管理の経験を経て、有料老人ホームの管理者の機会を得た。運営における課題解決への取り組み、マネジメントを通して学んだことを振り返り報告する。

【特定施設転換の背景】

プライムガーデンうるまは令和 4 年 3 月に住宅型有料老人ホームから介護付き有料老人ホーム（以下、特定施設）へ変更した。職員もホーム所属とデイサービス所属と分かれていて、一体的な運営が課題となっていた。入居者の高齢化、介護重度化への対応、人員の充実のため特定施設へ転換となった。

【運営における課題】

①人員

管理者の変更や職員の入退職、異動が多く不安定な状況だった。また、慢性的な人員不足があり、特定施設移行後は利用者の介助量増加や医療的ケアの対応など、業務負担感から離職が多かった。

②介護度が重度化することでのケアの難しさ

要介護 4 アルツハイマー型認知症、車椅子からの立ち上がり頻回で転倒リスク高い、夜間不眠で効果的な対応策がなく身体拘束とならないようなケアについて日勤、夜勤ともに苦慮していた。

③稼働率

利用者の入れ替えに伴い稼働率が 65%まで低下し、稼働率を向上させることが課題だった。

【転機・取り組み】

介護副主任、主任がそれぞれ異動就任し現場をまとめる体制が整う。コロナ禍の施設内療養対応については他部署の応援で危機を乗り越え、特定施設サービスの定着の転機となった。令和 5 年 6 月 OT を配置。居室における転倒予防対策、統一ケアを行うため、ケア方法やポジショニング掲示等の環境整備や、多職種で協力しての機能訓練プログラムの実施が進んだ。新規の受け入れを積極的に行い、特定施設開始から 2 年で稼働率 100%を達成できた。高稼働と介護度が高い方の受け入れにより収入面も向上した。

【他職種理解と多職種協働】

特定施設となる事で利用者層が変わり、特定施設サービスについて職員の理解を深めることに難渋した。利用者、家族のニーズに対して必要なケアを提供できる介護、看護、ケアマネ、相談員が協力しあうチーム作り、それには目標を同じ目線で考えるリーダー達とのコミュニケーションが支えになる。同職種がいない部署で他職種とチームを形成するためにはその職種の専門性と、職員一人一人が仕事に対する価値観を理解することが大切だと学んだ。介護職は養成校を経ている方、働きながら介護福祉士を取得する方がいて、理想とする介護には多種多様な思いがある。そういった中で運営方針を明確にして多職種で協力する風土を作っていくことが重要である。

【今後の課題】

加齢に伴う低下と併存疾患による介護状態の悪化に対応していくために、生活機能の維持向上を専門とするリハ職が関われることは無限にある。認知症高齢者が増加することが予測されていることから身体介助だけでなく、認知症ケアに強いチーム及び施設運営、PT でも認知症ケアに精通することが課題である。

特定施設入居者生活介護サービスにおける早期からの個別介入がADL能力向上にもたらす効果



松川 和（プライムガーデンうるま 介護福祉士）

奥平 悦津子（作業療法士）、宮里 由乃（理学療法士）

【はじめに】

当施設では個別機能訓練計画を基に、個々の生活目標を設定し多職種でケアや機能訓練を実施している。施設入居後早期からの介入でADL能力や認知機能向上に繋がったケースについて報告する。

【対象と方法】

80歳代女性 右脳梗塞発症を繰り返し、初発から8か月後に回復期病棟退院し当施設入居。ADL評価、ニーズ聴取し個別機能訓練計画立案。ベッドサイドを視覚的工夫で環境調整、自操自立目的に車椅子調整、目標に合わせた機能訓練プログラムを実施。入居から3か月経過し再評価した。

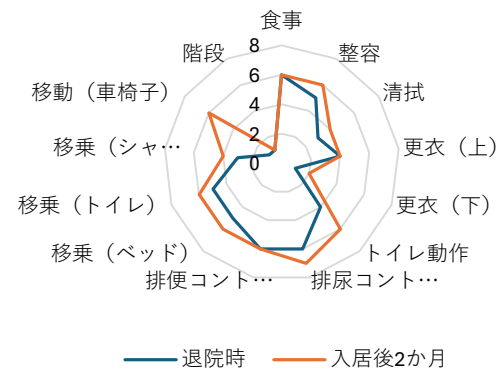
【結果】

退院時FIM73点（運動50点、認知23点）から89点（運動64点、認知25点）へ向上。HDS-R26点から29点、MMSE27点から29点へ向上。家族との外出頻度が増加し行動範囲が広がった。入居時は聴取できなかった生活課題が具体的に表出され、今後の生活についての具体的な目標が挙げられるようになった。

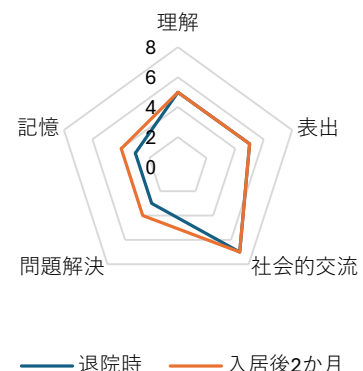
【考察】

入居早期からの生活環境調整、多職種での情報共有とケア統一、機能訓練介入によりADL能力が向上できた。それに伴い本人に自信がつき、家族との外出機会が増え活動の場が拡大し、ニーズに合わせた活動や機能訓練の提供により今後の生活目標や挑戦したいことなどについて、具体的な内容が表出できるようになったと考える。徐々に生活リズムにメリハリがつき、他者交流が活発になったことも認知機能向上にも繋がったと考える。

運動項目



認知項目



数字で見る沖リハ病院

臨床指標 2024

(2024 年 4 月～2025 年 3 月)

退院患者数

延べ人数

年間：**1,449**件

○回復期病棟：1,112件

○精神科病棟：337件

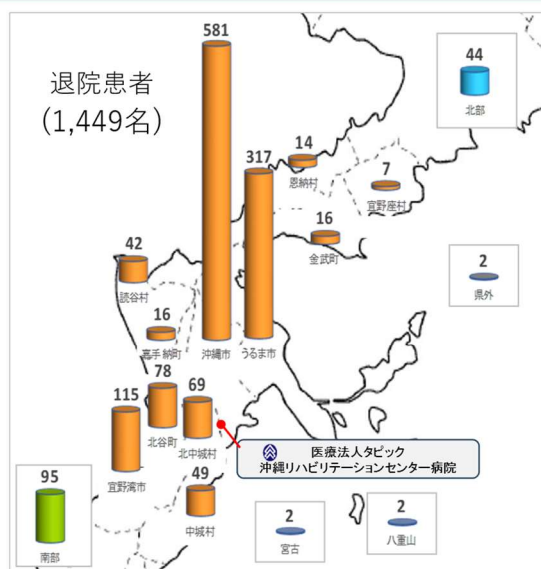
外来患者数

延べ人数

年間：**58,830**件

1日：**242**件 (平均)

患者住所（退院患者）



【医療法による二次医療圏に基づいた区域の分類】

住所別患者数(沖縄県)			回復期病棟	精神科病棟	全体
県内	北部	国頭村	1	1	2
		東村	3	1	4
		名護市	19	5	24
		今帰仁村	2	0	2
		本部町	6	1	7
		伊是名村	1	0	1
		伊平屋村	2	0	2
	中部	伊江村	2	0	2
		宜野座村	7	0	7
		恩納村	10	4	14
		金武町	16	0	16
		読谷村	34	8	42
		うるま市	276	41	317
		沖縄市	465	116	581
		嘉手納町	14	2	16
		北谷町	64	14	78
		北中城村	57	12	69
	南部	宜野湾市	55	60	115
		中城村	42	7	49
		那覇市	11	23	34
		浦添市	5	15	20
		糸満市	1	8	9
		豊見城市	0	3	3
		南城市	2	1	3
		西原町	7	8	15
		与那原町	1	1	2
		南風原町	5	2	7
		八重瀬町	0	1	1
		南大東村	0	1	1
宮古	宮古島市	1	1	2	
	八重山	石垣市	1	1	2
県外	県外	神奈川県	1	0	1
		岡山県	1	0	1

平均年齢（退院患者）

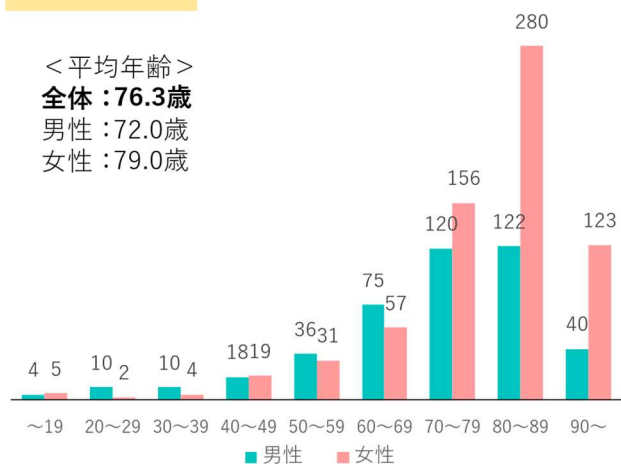
回復期リハ病棟

<平均年齢>

全体：76.3歳

男性：72.0歳

女性：79.0歳



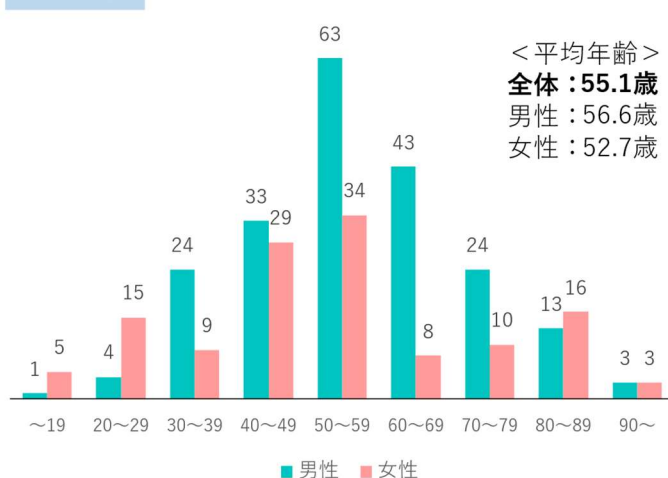
精神科病棟

<平均年齢>

全体：55.1歳

男性：56.6歳

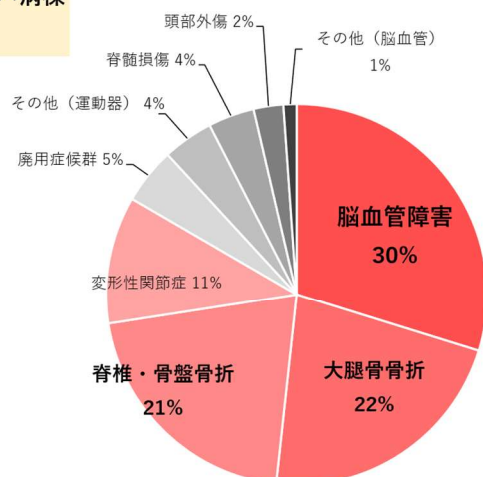
女性：52.7歳



疾患別割合（退院患者）

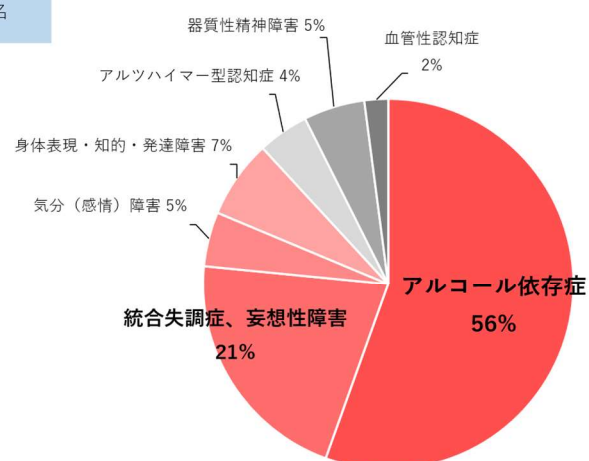
回復期リハ病棟

1,071名



精神科病棟

337名



※回復期対象外を除く

※その他（運動器）の内訳：膝蓋骨骨折の術後、腰部脊柱管狭窄症の術後など

※その他（脳血管）の内訳：脳炎・脳症、もやもや病、ギラン・バレー症候群など

平均在院日数（退院患者）

回復期リハ病棟

66.2日

（全国平均：68.6日 2023年度）

※回復期対象外を除く

【回復期リハ病棟】リハビリ疾患分類	平均在院日数
脳血管	84.0
運動器	55.5
廃用	53.6

精神科病棟

158.6日

（全国平均：263.2日 2023年度）

（沖縄県平均：240.3日 2023年度）

【精神科病棟】疾患分類	平均在院日数
アルコール依存症	61.1
統合失調症、妄想性障害	412.3
気分（感情）障害	53.6
身体表現・知的・発達障害	70.6
アルツハイマー型認知症	192.9
器質性精神障害	344.4
血管性認知症	169.0

回復期リハビリテーション入院料・実績

沖縄リハビリテーションセンター病院

回復期リハ
入院料1

実績指数
40以上

回復期リハ
入院料2

【実績部分】

重症患者割合：4割以上
在宅復帰率：7割以上

重症者の日常生活機能評価4点
（FIM16点）以上改善：3割以上

【基本部分】

看護職配置：13対1（看護師7割以上）
PT3名、OT2名、ST1名
社会福祉士1名など

回復期リハ
入院料3

実績指数
35以上

回復期リハ
入院料4

【実績部分】

重症患者割合：3割以上
在宅復帰率：7割以上

重症者の日常生活機能評価3点
（FIM12点）以上改善：3割以上

【基本部分】

看護職配置：15対1（看護師4割以上）、PT2名、OT1名など

回復期リハ
入院料5

重症者の割合

46.2%

※回復期対象外を除く

●回復期リハビリテーション病棟入院料1
基準値：40%以上

※「重症者割合」とは、施設基準の要件となっており、日常生活機能評価で10点以上ある方の割合です。

重症者の改善率

83.4%

※回復期対象外を除く

●回復期リハビリテーション病棟入院料1
基準値：30%以上

※「重症者改善率」とは、施設基準の要件となっており、重症者が退院時に日常生活機能評価で4点以上改善された方の割合です。

在宅復帰率

90.4%

※回復期対象外を除く

(全国平均：78.1% 2023年度)

自宅復帰率：78.6% (全国平均：64.5% 2023年度)

●回復期リハビリテーション病棟入院料1
基準値：70%以上

※「在宅復帰率」とは、施設基準の要件となっており、退院患者全体のうち“自宅”や“高齢者住宅”等へ退院された方の割合です。

実績指数

58.4

※回復期対象外・除外者を除く

(全国平均：47.5 2023年度)

●回復期リハビリテーション病棟入院料1
基準値：40以上

※「実績指数」とは、リハビリテーション提供により、対象者の状態がどの程度改善したかを示す数値です。

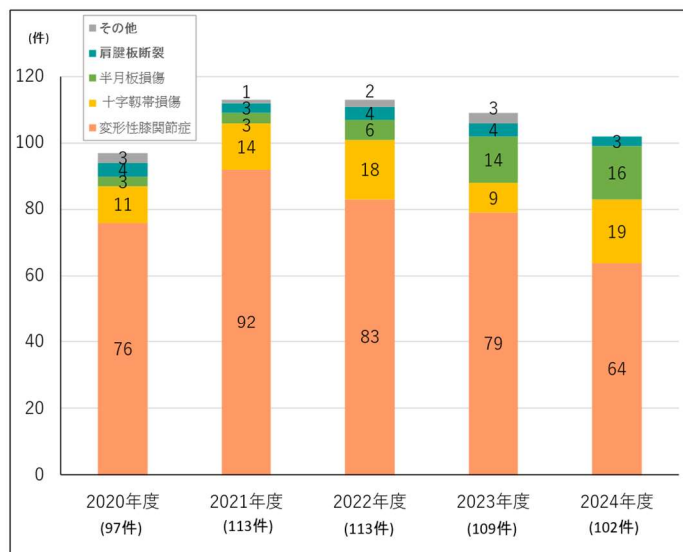
手術件数

102件/年

- 平均年齢：62.1歳
- 最年少：15歳
- 最高齢：88歳

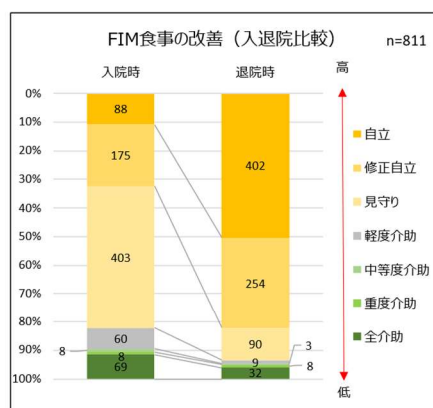
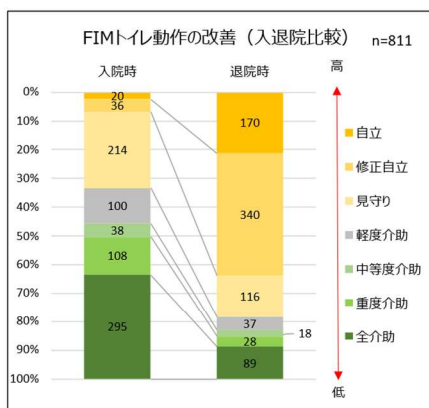
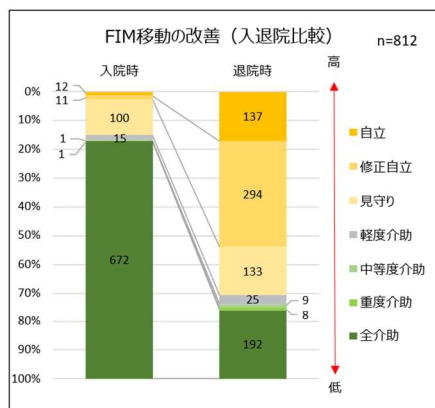
2024年度 術式別件数

変形性膝関節症		十字靱帯損傷	半月板損傷		肩腱板断裂	その他
人工関節全置換(TKA)	人工関節単顆置換(UKA)	関節鏡下靱帯断裂形成手術(十字靱帯)	縫合	切除	関節鏡下肩腱板断裂手術(簡単)	
61	3	19	7	9	3	0



日常生活動作の改善

※使用可能なデータを用いて集計しているため、全退院患者数ではありません。



【FIM = Functional Independence Measure (機能的自立度評価法)】

- 自立：自分で行うことができる
- 修正自立：手すりや道具などを用いて自分で行う
- 見守り：介助者による見守り・声掛けが必要
- 軽度介助：ほぼ自分で動作可能
- 中等度介助：半分くらいの動作に介助が必要
- 重度介助：ほとんどの動作で介助が必要
- 全介助：全ての動作に介助が必要

リハビリテーション実施時間

2時間11分

※患者1人1日あたり

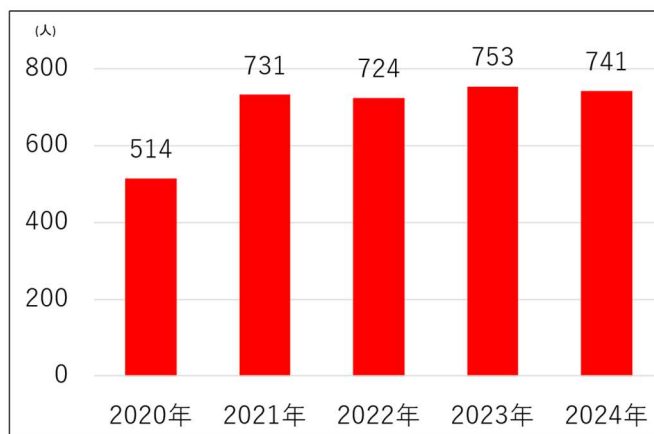
※平均6.6単位（全国平均6.3単位_{2023年度}）

- 脳血管 : 実施時間 2時間26分（平均7.3単位）
- 運動器 : 実施時間 1時間58分（平均5.9単位）
- 廃用症候群 : 実施時間 1時間48分（平均5.4単位）

職員数

741名

※2024年4月



※沖リハ病院内（デイケア等含む）の職員数

※2021年2月から精神科病棟（4病棟）が加わり、職員数が増加。

【沖縄文化スポーツイノベーション広報誌】



タピックグループの沖縄スポーツイノベーション株式会社は、公園、運動施設、生涯学習施設の指定管理事業を行っています。毎月発行している、各公園のニュースレターをご紹介します。

スポーツと文化、自然を生かした公民協働のまちづくりを目指す
タピックグループの専門組織を担い、社会に貢献する。

名護城公園（ニュースレターなんぐすく）

NANGUSUKU PARK ニュースレター
名護グスク公園 なんぐすく 2025年5月号

公園からのお知らせ

利用者の皆様へ
遊具のあるウーマク広場は駐車場が混みますので、来園する際には余裕をもってお越しください。

ランタノ類に訪花するチョウ

アオシヤゲハ シロオビアゲハ ナガサキアゲハ
ベニモンアゲハ ジャコウアゲハ ウスキシロチョウ

ナミシロチョウ ミナミキチョウ アオタハモドキ
アカタハ イシガケチョウ タハモドキ
ツマムラサキマダラ カバマダラ ヒメシルビアシジミ

名護城公園ニュースレター **なんぐすく** 2025年5月号
名護城公園管理事務所 〒905-0012 沖縄県名護市名護5511
TEL(0980)52-7434 FAX(0980)52-7477 <https://nangusukupark-osi.jp>
指定管理者 沖縄文化スポーツイノベーション株式会社(タピックグループ) 編集・発行:比嘉正一

浦添大公園（ニュースレターうらしー）

浦添大公園 ニュースレター
うらしー 2025年5月号

公園からのお知らせ

利用者の皆様へ
B・Cゾーンに設置された遊具は人気のため土・日・祝日に来園者が多く駐車場がすぐに満車になります。芝生広場前駐車場もご利用下さい。

新遊具が完成

場 所：ふれあい広場
対象年齢：6～12歳未満
利用者へのお願い
広場内に「あそびかたのちゅうい」掲示がありますので、必ず確認して下さい。
※トランポリンは履物を脱いでください。

モニュメント・太陽「ティーダ」が目印
スベリ台各種

トランポリン
モニュメントは国道330からも良く見えます
アスレチック
遊具がたくさん冒険心をかきたてます

浦添大公園ニュースレター **うらしー** 2025年5月号
浦添大公園管理事務所 〒901-2103 沖縄県浦添市仲間2-53
TEL(098)873-0700 FAX(098)873-0714 <https://uraseedaiipark-osi.jp>
指定管理者 沖縄文化スポーツイノベーション株式会社(タピックグループ) 編集・発行:比嘉正一

2025年5月号



国道330号線、沖縄自動車道北中城ICから
北駐車場/乗用車190台 バス10台
国道329号線から
西駐車場/乗用車100台 バス2台
中城城跡向かい 台グスク 乗用車70台

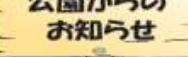
園内は四季を通して様々なトンボが観察出来、特に園の中央を流れるせせらぎには何種類も生息しています。5月は特に多い時期、ぜひ見つけてください。



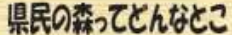
せせらぎで多いのはタイリクショウ
ジョウトンボ(赤いトンボ)とハラボソトンボ
アカナギイトンボ
です。数が少ないのはシオカラトンボで絶滅が心配されています。
このせせらぎのおかげで生息出来、毎年発生し観察されています。
また、旅をしても言われているウスバキトンボ(カジフチトンボ)、
ギンヤモも見られます。

指定管理者 沖縄文化スポーツイノベーション株式会社(タビックグループ) 編集・

2025年5月号



開園時間/9:00~18:30
休 園 日/毎週月曜日
※キャンプ場の予約は1か月前
からできます。



リュウキュウ
のテーブル



沖ノ島島中に位置する中央公園には、30 種類余りのチョウ類が生息しています。里山の森
奥山から、森や渓谷、広場などがあちこちの食する植物の種が多いからです。園内を歩
歩しながら、この時期に観察できる種、見つかる幼虫について解説致します。

日 時：5月24日(土) 9時30分～11時
対 象：小学生以上
場 所：沖縄県民の森(総合案内棟前集合)
参加料：1,000円
定 員：15名
主 催：沖縄県 県民の森
協賛：(株)アール・バーリッパ
令和7年

※郵政のゆうちょ銀行に、GND申請料を250円お支払いください。

5月24日(土)開催

申込/問合せ 098-967-8092

THE FOREST

指定管理者 沖縄文化スポーツイノベーション[タビックグループ] 編集・発行:比嘉正一

編集・発行：比嘉正一

コザを元気に、パッと明るく
KOZAPa!
コザアスレチックパーク

ニュースレター
2025年5月号



利用者の皆様へ
乗用車でお越しになる際には駐車場
状況を確認の上、来園してください。

コザ運動公園 **気になる木** **ビロウ (枇榔)**
Livistona chinenses

別名: クバ
中国名: 蒲葵 英名: Chinese fan palm
ヤシ科 九州南部〜中国南部
高さ4-15mに成長する常緑高木。沖縄では各島々に自生。海辺の林から時に、山全体に群生することがある。南北大東島には変種のタイロウビロウが自生し、葉を屋根ふきに、幹は柱に使われていた。ご神木として久高島の拝所他、各地域の聖域に大切に保存されている所が多い。景観づくりに良いことから街路、公園、庭園などに植えられている。葉は扇、剣を包む材料にも使う。新芽は食べられる。
花は初夏に房状に咲き黄色。果実は黒熟し球形。



ビロウが群生
与那国島

ビロウの苗



チョウの自然観察会

春ののちである公園でも植物が生きていると目を惹く季節にふさわしく、そこで色々なチョウが飛び交い、その姿を眺めながら、その生態や生活の仕方について学ぶ。この時期に公園を訪れる方、ぜひ参加してください。日曜日は17時開始です。
日 時: 5月10日(土) 9時30分〜11時
対 象: 小学生以上
場 所: コザ運動公園(中城中央上越技術的集約)
参加料: 1,000円
定 員: 15名
主 催: コザ運動公園
(協賛: 沖縄文化スポーツバージョン株式会社)

5月10日(土)開催

お申し込み: 098-932-0777



クバ扇

ビロウの樹形

5月 駐車場混雑予想のお知らせ K O Z A P a !

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

コザ運動公園ニュースレター 2025年5月号
コザ運動公園 〒904-0032 沖縄県沖縄市諸見里2丁目1-1
TEL.(098)932-0777 FAX.(098)931-9211 <https://www.kozapa-osi.jp/>
指定管理者 沖縄文化スポーツバージョン株式会社(タビックグループ) 編集・発行:比嘉正一

平和創造の森公園 ニュースレター
Peace Park Okinawa **創造の森**
2025年5月号



利用者の皆様へ

休園日
毎週月曜日 祭月曜日祝日の場合は翌日
開園時間
9:00〜18:30(4月1日〜8月31日)
9:00〜17:30(9月1日〜3月31日)



植樹祭の木

沖縄県平和創造の森公園は、1993年に第44回全国植樹祭の開催意義である「平和で緑豊かな環境を創り、次の世代へ引き継ぐこと」を目的に、平成10年(1998)4月に開園しました。2018年2月に実施された樹木調査を元に現在の生育状況と樹木の特徴について紹介します。生育数9本

サルスベリ(猿滑、百日紅) *Lagerströmia indica*

別名: ハヤジツコウ 方言名: ハゴーギ

中国名: 紫薇 英名: Crepe myrtle ミソハギ科 中国南部原産

高さ2-7mに成長する落葉小高木。葉は楕円形で長さ3-6cm。花は夏に咲き白、ピンクで花びらが波打り独特で径3cm程で固まって枝先に咲く。樹皮はとってもなめらかで、良く目立つ。気温が低下する12月〜1月には紅葉し落葉する。

樹形が良く花もきれいなことから、街路、公園、庭園などに植えられる。



白花



ピンク花



街路樹

なめらかな樹皮



**初夏のチョウ類
自然観察会**

沖縄県数寄郡に位置する平和公園には、20種類以上のチョウ類が生息しています。幼虫の食する植物の種類が多く、花を食する花も年中咲いているからだと思います。園内を散策しながら、この時期に観察できる種類、見つかる幼虫について所見をします。

日 時: 5月17日(土) 9時30分〜11時
対 象: 大人
場 所: 平和創造の森公園(管理事務所前集合)
参加料: 1,000円
定 員: 10名
主 催: 平和創造の森公園
(協賛: 沖縄文化スポーツバージョン株式会社)

5月17日(土)開催

お問合せ: 098-852-4033

〒901-0352 沖縄県糸満市山城449

(休園日: 毎週月曜日)



平和創造の森公園
Peace Park Okinawa

平和創造の森公園 **創造の森** 2025年5月号
管理事務所 〒901-0352 沖縄県糸満市山城449
TEL.(098)852-4033 <https://www.peaceforestpark-osi.jp/>
指定管理者 沖縄文化スポーツバージョン株式会社(タビックグループ) 編集・発行:比嘉正一

タピックグループ メディア関連記事

(医療医学・観光・その他)

メディア関連記事は冊子にて掲載しております。

ご希望の方に数量限定ではありますが冊子の配布をしております。

2024年(令和6年) 年表

※2024年1月～2025年3月

2024年1月4日	2024年 タピックグループ年始式
2024年4月1日	医療法人タピック合同入職式
2024年4月1日	沖縄文化スポーツイノベーション株式会社 新規指定管理施設 選定 ・那覇市新都心公園（2024年4月） ・南城市障がい者地域活動支援センター（2024年4月） ・介護予防拠点施設 西原町いいあんべー家（2024年4月）
2024年10月1日	ユイinchホテル南城 ・沖縄県障害者雇用推進企業登録制度(ワークわく！おーきなわ)認定
2025年1月1日	ユイinchホテル南城 猿人の湯 『ニフティ温泉2024年間ランキング』 3年連続、九州沖縄エリア総合1位 【各ランキング】 ・全国総合 第78位 （前年80位） ・九州・沖縄エリア総合 第1位 （前年1位） ・沖縄県総合 第1位 （前年1位） ・九州・沖縄エリアユーザー投票 第1位（前年1位） ・沖縄県ユーザー投票 第1位 （前年1位） ・絶景部門 第11位 ・電子チケット ベストセラー部門 第10位
2025年1月1日	ユイinchホテル南城 猿人の湯 『温泉宿・ホテル総選挙2024』 ・ファミリー部門 九州・沖縄 第2位 ・絶景部門 九州・沖縄 第2位
2025年1月1日	ユイinchホテル南城 『ちゅらとくアワード2024』 ・月桃部門（客室数81～240室施設） 第1位
2024年12月1日	ちょーでーホール部 新設（入退院支援室、ソーシャルワーカー質、心理臨床室）
2025年2月1日	地域密着型特定施設入居者生活介護ラペジューブル泡瀬 →特定施設入居者生活介護ラペジューブル泡瀬へ転換
2025年3月1日	ユイinchホテル南城 ・障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定制度「もにす認定」取得

TAPiC グループ

♥ 医療・介護

沖縄リハビリテーションセンター病院

- ・精神科デイケア・デイナイトケア
- ・高次脳デイケア
- ・沖縄百歳堂デイケアセンター
- ・訪問リハビリテーション室
- ・ねたて訪問看護室
- ・沖縄県認知症疾患医療センター(地域型・中部圏域)
- ・沖縄県依存症治療拠点機関
- ・沖縄県依存症専門医療機関
- ・沖縄県高次脳機能障害支援拠点機関

介護老人保健施設 亀の里

たびっく地域ケアホームひやごん

- ・たびっく定期巡回ケアステーション
- ・たびっくデイサービスセンター
- ・あわせ訪問看護ステーション
- ・あわせヘルパーステーション

プライム・ガーデンうるま(介護付き有料老人ホーム・特定施設)

サービス付き高齢者向け住宅 ラ・ペジューブル泡瀬(一部特定施設)

宮里病院

- ・精神科デイケア
- ・重度認知症デイケア
- ・沖縄県認知症疾患医療センター(地域型・北部圏域)
- ・精神科訪問看護室

多層共同住宅 ラ・ペジューブル名護

ワークセンターリガーレ

- ・計画相談支援事業所リガーレ
- ・就労継続支援 B 型事業所リガーレ

名護市スポーツリハビリテーションセンター SpoRC クリニック

- ・通所介護、訪問リハビリテーション

沖縄市地域包括支援センター西部南

宜野湾市地域活動支援センター TAPIC

西原町介護予防拠点施設いいあんべー家

地域活動支援センター野の花

自然・公園

名護中央公園(名護城”なんぐすく”公園)
浦添大公園
中城公園
安座真海浜公園(あざまサンサンビーチ)
県民の森
平和創造の森公園
新都心公園
八重島公園

文化

沖縄文化健康センターペアーレ沖縄・タピック
今帰仁村グスク交流センター
西原町町民交流センター(さわふじ未来ホール)

スポーツ・健康・運動公園

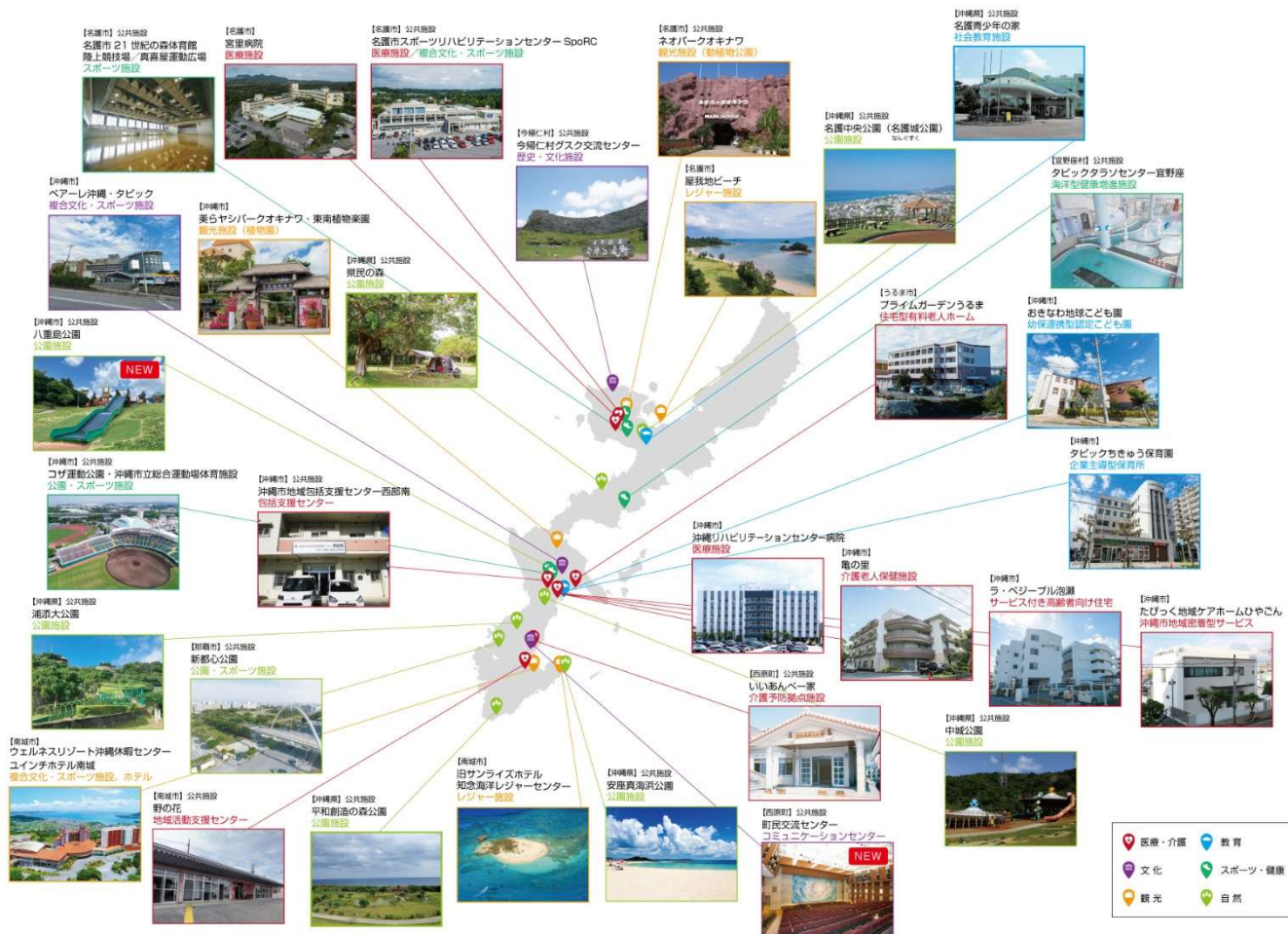
コザ運動公園・沖縄市立総合運動場体育施設
SpoRC フィットネスセンター
21 世紀の森体育館
名護市陸上競技場
名護市真喜屋運動広場
タピックタラソセンター宜野座

教育

幼保連携型認定こども園 おきなわ地球こども園
企業主導型保育所 タピックちきゅう保育園
ちばな学童クラブ
名護青少年の家

観光

美らヤシパークオキナワ・東南植物楽園
ウェルネスリゾート沖縄 ユインチホテル南城
・天然温泉施設「猿人の湯」
ネオパークオキナワ(動植物公園)
屋我地ビーチ
知念海洋レジャーセンター



編集後記

リハビリテーション部 部長 平 勝也

本年度も皆さまの温かいご協力のもと、無事に業績集を発行することができました。心より感謝申し上げます。

2024 年度は、パリオリンピック・パラリンピックが開催され、日本人選手たちの活躍が大きな感動を呼びました。なかでも、沖縄県出身の喜納翼さんがパラリンピックの車いすマラソンに出場し、堂々とした走りで私たちに大きな勇気と感動を与えてくれました。

院内に目を向けると、認定制度である「タピックアスレチックトレーナー（TAT）」制度も 2024 年度で 6 期目を迎え、地域スポーツ支援の取り組みがさらに充実しています。TAT 認定者は、沖縄マラソンやダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメントなどへも派遣され、法人として地域に貢献する活動が着実に広がっています。

また、回復期病棟では、当院が県内で唯一提供しているロボットスーツ HAL を活用し、入院中の患者さまの歩行リハビリに積極的に取り組んでまいりました。最先端の技術を用いた支援が、患者さまの可能性を広げる一助となっていることを実感しています。

さらに、「口から食べる」ことを支援するための取り組みとして、医師・看護師・言語聴覚士・作業療法士を中心に「口から食べるプロジェクト」を推進しています。この活動を通じて、職員一人ひとりの成長を感じており、より質の高いケアとリハビリテーションの提供につながっていると感じております。

さまざまな取り組みを行う中で、それらの活動を記録・発信していくことは、より良い医療・リハビリの提供に欠かせない大切なプロセスです。今回もこうして業績集という形で、私たちの歩みをまとめることができたことを大変うれしく思います。

今後も「健康で生きがいのある元気なまちづくり」の実現に向けて、地域に貢献できる医療法人タピックとして、さらなる発展を目指してまいります。

最後になりますが、本誌の作成にあたりご尽力いただいた各部署の皆さま、スタッフ、関係者の皆さまに、改めて心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

【表紙について】

表紙は『沖縄文化スポーツイノベーション株式会社（OBSI）』が指定管理事業等を担っている各事業施設のロゴです。

タピックグループのミッションの一つである「健康と生きがいのある元気なまちづくり」を基に「スポーツと文化、自然を生かした公民響働のまちづくりを目指すタピックグループの専門組織を担い、社会に貢献する」を理念に運営しております。

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院 業績集 2024



発刊日：2025 年 9 月 1 日

発行元：医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

編集者：医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院 業績集 2024 作成委員会

発行責任者：宮里 好一（タピック代表）

編集委員長：和宇慶 亮士（教育研修局 マネージャー 作業療法士）

編集委員：真栄城 あかね（新館5階メディカルホールていだ マネージャー 理学療法士）

名嘉真 卓（リハビリテーション部 サブマネージャー 作業療法士）

伊禮 翼（老人保健施設 亀の里 管理部課長 事務）

古謝 彩実（医事課 診療情報管理士）

比嘉 沙織（国際交流課 主任 事務）

大城 愛梨（管理部 事務）

上原 勇介（管理部 事務）

久高 萌（看護・介護統括部 事務）

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

〒904-2173 沖縄県沖縄市比屋根二丁目 15 番 1 号

電話番号：0570-017-779 FAX 番号：098-982-1788

ホームページ：<http://www.tapic-reha.or.jp/>

